

# 地域医療構想に関する具体的 対応方針の協議について

# 令和5年度における議論の進め方について

## 地域保健医療対策協議会（地域医療構想調整会議）における議論の進め方（現時点のイメージ）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			第1回						第2回		
<ul style="list-style-type: none"> <li>公的及び民間医療機関の具体的対応方針に関する協議</li> <li>国から示された留意事項 等</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>公立病院経営強化プランに関する協議 等</li> </ul>					

## 各医療機関における対応方針の策定や検証、見直しに当たっての依頼事項等

### 【令和4年度】

- 地域医療構想部会において、地域医療構想に関するデータ等を踏まえた現状と課題等に関する議論、公立病院が地域で担う役割、機能等に関する意見交換を実施

### 【令和5年度】

- 公立病院**には、「公立病院経営強化プラン」について、令和4年度に実施した地域で担う役割・機能等に関する意見交換を経て策定作業いただいたプランの最終案を地域医療構想部会で説明をお願いします。
- 公的病院**には、将来の医療需要や地域の実情等を踏まえ、検証、必要に応じた見直しを行った具体的対応方針について、地域医療構想部会で説明をお願いします。
- 民間医療機関**には、将来の医療需要や地域の実情等を踏まえ、具体的対応方針の検証、必要に応じた見直しを依頼し、検討結果が地域医療に影響がある内容等であれば適宜地域医療構想部会で説明をお願いします。
- 協議については、地域医療構想部会において専門的な協議を行った上で、本会に報告（協議）を行う。

# 具体的対応方針に係るこれまでの対応状況と今後の対応について

## これまでの対応状況

	具体的対応方針の策定状況（平成30年度までに策定・協議済）	具体的対応方針の再検証要請（R2.1.17）に係る対応
公立病院 （新公立病院改革プラン 策定対象病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新公立病院改革プラン」の策定</li> <li>○補足資料（県独自様式）の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自医療機関のあり方について」（県独自様式）の作成</li> </ul> ※地域や医療機関によっては令和元年度末頃に1度協議を実施
公的病院 （公的医療機関等2025 プラン策定対象病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「公的医療機関等2025プラン」の策定</li> <li>○補足資料（県独自様式）の作成</li> </ul>	
民間医療機関 （有床診療所含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「2025年への対応方針」（県独自様式）の作成</li> </ul>	—



## 今後の対応

	国通知（R4.3.24）を踏まえた対応	具体的対応方針の再検証要請（R2.1.17）に係る対応
公立病院 （公立病院経営強化プラン 策定対象病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「公立病院経営強化プラン」の策定</li> <li>○補足資料（県独自様式）の再作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自医療機関のあり方について」（県独自様式）の再作成</li> </ul> ※再検証要請の観点も踏まえて、左記の具体的対応方針の策定、検証等を行う。
公的病院 （公的医療機関等2025 プラン策定対象病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「公的医療機関等2025プラン」の<u>検証・見直し</u></li> <li>○補足資料（県独自様式）の再作成</li> </ul>	
民間医療機関 （有床診療所含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「2025年への対応方針」（県独自様式）の<u>検証・見直し</u></li> </ul>	—

# 具体的対応方針に関する協議について

## 具体的対応方針に係る説明について

### 【事務局からの説明】

- 具体的対応方針の検討・更新結果に関する全体の状況について説明

### 【医療機関からの説明】

- 公的医療機関及び医療機能の変更等の検討を行っている医療機関で地域への説明が必要な民間医療機関を対象に説明を依頼
  - 公的医療機関：渋川医療センター
  - 民間医療機関：クリニックオガワ（北関東循環器病院）

### ■主な説明の観点 ※説明用資料はスライド2でお示しした資料

- 将来の医療需要等を見据えた病床数、病床機能について
- 病床機能報告における医療機能の選択の考え方について
- 地域における役割、他医療機関との連携について

※ 公的医療機関においては、国による再検証に係る分析の観点（「自医療機関のあり方について」）も踏まえ説明を依頼

## 地域医療構想部会における協議の観点

- 説明いただいた医療機関の具体的対応方針やその他の医療機関の対応方針が、将来の医療需要や地域の役割分担・連携等を踏まえた内容となっているか。
- その上で、今後、地域で不足する機能やさらなる役割分担・連携が必要な領域等はないか。

公立・公的医療機関に係る具体的対応方針①

1. 基本情報		2. 病床について														2025年に向けた病床活用の見通し等				
医療機関名		現在 (A)						将来 (2025年) (B)						差 (B-A)		※公立：公立病院経営強化プランの概要「経営強化プラン最終年度における当該病院の具体的な将来像」から抜粋 ※公的：公的医療機関2025プラン「今後持つべき病床機能」から抜粋				
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行	合計		高度急性期	急性期	回復期	慢性期
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	公的	400		275	25	100		400	4	265	25	106				4	▲ 10		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋川医療センターの開院により、渋川医療圏内及び北毛地域の受け入れ等の実績が増加しており、引き続き、北毛地域の基幹病院との役割を果たしていく。</li> <li>・ 今後の当院における医療需要の動向等や、渋川地域保健医療対策協議会での議論を踏まえながら、検討していく。</li> </ul>
県立小児医療センター	公立	150	41	109				150	41	109										<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状における当該病院の果たすべき役割を維持していく。</li> <li>※現状における当該病院の果たすべき役割</li> <li>・ 県内唯一の小児専門病院として、高度で先進的な小児医療・周産期医療を安全に提供し、県内全域の中核病院として群馬県の医療に一層貢献していく。</li> </ul>

※公立病院は、R4.10.25渋川地域保健医療対策協議会地域医療構想調整部会に検討状況等を提出した時点の情報。公立病院に係る協議は別途実施予定。



1. 基本情報	2. 病床について																
	現在 (A)					将来 (2025年) (B)						差 (B-A)					2025年に向けた病床活用の見通し
	合計					合計					廃止	介護保険施設等への移行	合計				
高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	高度急性期	急性期			回復期	慢性期			
医療法人 菊栄会 渋川中央病院	153	60	43	50		153	60	43	50								今後も救急医療・急性期医療を提供していくと共に、ポスト・アキュート、サブ・アキュート機能の充実を図る。 リハビリテーション提供可能施設と透析施設を併せ持った医療機関として、回復期機能の充実を図るため、地域包括ケア入院医療管理料算定病床を急性期病床から一部転換を検討している。
北毛保健生活協同組合 北毛病院	150	100		50		150	100		50								急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて医療を提供する機能を維持高度急性期後の患者受けれも積極的に行う。
北関東循環器病院	120	76		44		120	76		44								・循環器疾患を中心とした高度医療を提供し、北毛・前橋地区を中心に救急医療に貢献していく。 ・早期退院をサポートするリハビリテーションの強化を図る。 ・地域医療を見据え高齢者医療の充実を図る。
医療法人群栄会田中病院	98		43	55		98		43	55								現状維持
医療法人恒和会 関口病院	85	35	50			85	35	50									急性期医療を引き続き提供するとともに、急性期医療を終えた患者さんに対して、リハビリや退院支援などの提供、在宅医の依頼を受け在宅療養中の患者さんの受入などを強化するため、令和4年6月新病院移転時に回復期病床の増床を実施。
母心堂平形眼科	5				5	5	5									5	現在、病棟建設及び設備更新の計画中であり、当院隣接の県道拡幅工事予定に合わせ、県と協議の上、実施したい。 眼科手術や入院管理が必要とされる眼疾患に広く対応できる体制を構築する予定である。
有馬クリニック	8	8				8	8										現在と別段変わりはないです。現状維持です。
医療法人社団悠育会クリニックオガワ	19	19				19	19										現状、産科婦人科の専門病床のみだが、地域の医療情勢、当院の人員状況により変更の必要性があるかもしれないが、県北部の産科医療の保持の為には出来るだけ頑張りたいと考えている。

1. 基本情報		3. 医療機能について																										
医療機関名	診療科目	診療科一覧	現在													将来（2025年）												
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	その他	「その他」具体的内容	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療	救急	災害	へき地	周産期	小児	その他	「その他」具体的内容
医療法人 菊栄会 渋川中央病院	14	内科、外科、消化器外科、消化器内科、腎臓内科、リウマチ科、人工透析内科、血液内科、循環器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、泌尿器科、リハビリテーション科、婦人科		○		○	○	○	○																		○	透析医療 リハビリテーション
北毛保健生活協同組合 北毛病院	9	内科、外科、大腸・肛門外科、消化器外科、精神科、眼科、皮膚科、小児科、救急科		○		○		○	○					○	○											○	○	人間ドック他健診事業
北関東循環器病院	12	内科、外科、循環器内科、心血管外科、眼科、整形外科、血管透析内科、リハビリテーション科、婦人科、放射線科、皮膚科、泌尿器科			○	○			○						○											○	○	リハビリテーション、人間ドック等健康診断
医療法人群栄会田中病院	5	精神科、神経科、内科、心療内科、歯科				○	○	○																				
医療法人恒和会 関口病院	12	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、内科、消化器内科（内視鏡）、内分泌・糖尿病内科、漢方内科、麻酔科、形成外科、泌尿器科、脳神経外科、外科				○	○	○	○					○	○											○	○	リハビリテーション
母心堂平形眼科	1	眼科												○												○	眼疾患全般の診療、小児眼科、ロービジョン対応	
有馬クリニック	2	泌尿器科 血液透析科	○		○	○		○	○																		炭酸ガスレーザーにての皮膚腫瘍切除が可能です。	
医療法人社団悠育会クリニックオガワ	1	産婦人科																						○	○			



# 澁川医療センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【渋川医療センターの基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター

開設主体：国（（独）国立病院機構）

所在地：群馬県渋川市白井383番地

許可病床数：

（病床の種別）

450床（一般300床、結核46床、第2種感染症病床4床）

（病床機能別）

高度急性期0床、急性期275床、回復期25床、慢性期100床

※回復期25床は、緩和ケア病棟。慢性期100床は、重症心身障害児（者）病棟

稼働病床数：

（病床の種別）

450床（一般275床、緩和ケア25床、結核46床、第2種感染症病床4床）

（病床機能別）

高度急性期0床、急性期275床、回復期25床、慢性期100床

診療科目：

総合診療科、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、精神腫瘍科、小児科（重症心身障害児（者））、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科  
（平成29年9月1日現在）

職員数：

現員数（H29.9.1）

職種	計
医師	49.7
薬剤師	15
診療放射線技師	17
臨床検査技師	14
管理栄養士	4
臨床工学技士	1
リハビリテーション	19
視能訓練士	1
看護職	284.43
保育士・児童指導員	6
事務職員	42.55
医療社会事業専門員	6
診療情報管理職	3
介護職	3.66
技能職	34.4
合計	500.74

【1. 現状と課題】※群馬県地域医療構想より抜粋

① 構想区域の現状

・当院の構想区域・構成市町

構想区域	渋川構想地域
構成市町村	渋川市、榛東村、吉岡町

・将来人口・医療需要

構想区域の人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年の総人口は、2013年の約12万人から約11万人まで減少（2013年の91%）。</li> <li>・一方で、今後本格的に高齢化が進み、高齢者人口は2030年まで上昇を続ける（2030年の高齢者人口は2013年の138%）。</li> </ul>
構想区域の医療需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口が増加するため、医療需要も増加し、2035年頃にピークを迎えて減少に転じる見込み。</li> </ul>

② 構想区域の課題

構想区域の課題は下記の表のとおり。

現状・課題	対応策
急性期病床の過剰、高度急性期病床・回復期病床の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期から、回復期への転換促進</li> <li>・慢性期は、在宅医療・介護サービスの充実と必要な医療機能への転換を推進</li> </ul>
他府県・他圏域との医療機能連携と患者の流出入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度急性期・急性期については、一定の患者流出入が見られる前橋や高崎・安中等の各構想区域との役割分担を踏まえた上で、連携強化に係る取組を支援</li> </ul>
在宅医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院支援に係るルールの方策及び運用を推進し、入院初期から退院後の生活を見据えた退院支援や在宅患者の急変時の連携体制の整備に係る取組の推進</li> </ul>

＜参考＞構想区域における病床数

渋川構想区域における、報告病床（現状及び6年後）、2025年の必要病床数は以下のとおり。

6年度の予定病床数と2025年の必要病床数を比較すると、高度急性期と回復期が不足し、急性期が過剰となっている。

渋川地域医療構想区域		慢性期	回復期	急性期	高度急性期	合計
病床数	現状報告数	278	66	804	71	1,219
	6年後の予定	278	66	804	71	1,219
	2025年必要病床数	256	287	256	128	927
2025年と6年後の予定との差分		-22	221	-548	57	-292

③ 自施設の現状

基本理念＞

- ・北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします。

基本方針＞

- ・患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
- ・十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
- ・がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院として社会に貢献します。
- ・地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
- ・生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
- ・教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
- ・良質な医療を継続的に確保するために、健全な経営と適正な運営に努めます。

当院の機能＞

地域がん診療連携拠点病院、緩和ケア医療、結核拠点病院、重症心身障害児（者）医療  
エイズ治療拠点病院、肝疾患専門医療機関、救急告示病院、地域医療支援病院  
災害拠点病院（DMAT指定医療機関）、第二種感染症指定医療機関

当院の病床機能の特徴＞

- ・4病床機能のうち、急性期が中心。
- ・加えて、セーフティネットとして慢性期（重症心身障害児（者）医療）および、群馬県初の緩和ケア病棟（回復期）の機能を担っている。
- ・また、結核拠点病院として群馬県内では65床のうち当院は46床（約7割）を担っている。

診療機能連携＞

- ・地域の医療機関の特徴に沿った病・病連携を図る。特に小児領域においては、県立小児病院、循環器疾患では北関東循環器病院との連携を強化している。

＜当院の実績：渋川医療センター（H28）開院による西群馬病院（H27）との比較＞

・ 入院患者の比較

当院は、北毛地域（渋川保健医療圏・吾妻保健医療圏・沼田保健医療圏）の基幹病院としての役割を求められており、平成27年度（西群馬病院）と比較した場合、平成28年度の北毛地域の入院患者受入数は「約2.6倍」増加。

・ 外来患者の比較

平成27年度（西群馬病院）と比較した場合、平成28年度の外来患者受入数は「約2.4倍」増加。

・ 救急患者の比較

平成27年度（西群馬病院）と比較した場合、平成28年度の救急患者受入数は「約5.4倍」増加。

・ 紹介患者数の比較

平成27年度（西群馬病院）と比較した場合、平成28年度の北毛地域の紹介患者数は「約3.6倍」増加。

・ 手術件数の比較

平成27年度（西群馬病院）と比較した場合、平成28年度の手術件数は「約3倍」増加。

④ 自施設の課題

- ・ 更なる北毛地域の基幹病院の役割を果たすためには、診療科疾患別で近隣医療機関等との医療体制の連携が必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・北毛地域の基幹病院として地域の医療機関との診療機能の連携により高度な医療を提供する体制を整備し、地域完結型を目指す。
- ・地域の二次救急医療機関として救急受入体制の充実・強化を目指す。  
また、渋川医療圏唯一の災害拠点病院として災害時に高度な医療を提供出来る体制を構築する。
- ・群馬県が現在策定検討している第8次保健医療計画のなかで、当院の診療実績等を踏まえ、がんに関する圏域の沼田圏域が見直され、沼田・吾妻・渋川・前橋の各二次保健医療圏の関係機関が連携して医療需要に対応することとなる。当院は地域がん診療連携拠点病院として診療体制、病・病連携、病・診連携、診療従事者、相談業務等の充実を図っていく。
- ・地域医療支援病院として引き続き紹介患者の受け入れ、医療機器の共同利用、救急医療の提供及び地域の医療従事者に対する研修の実施等についての役割を担っていく。
- ・回復期として報告している緩和ケア病棟（25床）は、厚生労働省で設置している「がん等における緩和ケアの更なる推進に関する検討会（平成28年12月開催）」において、緩和ケアの提供体制の現状として、以下のことが提言されている。  
<現状>
  - ・がん診療に携わる医療従事者は、患者とその家族の心情に配慮し、ニーズを把握した上で、診断結果や病状、支援等について適切に伝える必要があるが、そのための体制が十分整備されていない。当院は、群馬県で初めて緩和ケア病棟設置した経緯もあり、積極的に緩和医療に取り組んでおり、上記の国の提言を受け止め、引き続き、緩和ケア体制を維持および在宅緩和ケア患者の支援を強化していく必要がある。
- ・慢性期として報告している重症心身障害児（者）病棟（100床）の医療提供体制として、第7次群馬県保健医療計画内の「重症心身障害」の現状と課題として、以下のことが記載されている。  
<現状と課題>
  - ア 近年、常時、医学的管理下に置かなければならない重症心身障害児（者）（超重症心身障害児等）が増加しています。
  - イ 超重症心身障害児等への対応が可能な施設が不足していることや、在宅医療の体制が十分ではない等の理由により、病院を退院できずに長期入院となっている場合があります。当院は独立行政法人国立病院機構に属しており、組織としてのミッションの一つとして、「重症心身障害児（者）医療」を掲げており、引き続き医療提供体制の維持をしつつ、超重症児・準超重症児の受入を含め、群馬県保健計画に沿った体制強化を行っていく必要がある。また、多くの診療科を有する当院における重症心身障害児（者）病棟のため、その医療資源を十分に活用して新たな診療モデルの重症心身障害児（者）医療を展開していく。
- ・結核医療について、県内では当院含め3施設が提供体制を図っており、当院は県内の結核病床の約7割を占めている。引き続き、群馬県保健医療計画に沿った結核医療体制の提供を担っていく必要がある。また、前述同様に多くの診療科を有する当院における結核病床のため、その医療資源を十分に活用して新たな診療モデルの結核医療を展開していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 渋川医療センターの開院により、渋川医療圏内及び北毛地域の受け入れ等の実績が増加しており、引き続き、北毛地域の基幹病院との役割を果たしていく。
- ・ 今後の当院における医療需要の動向等や、渋川地域保健医療対策協議会での議論を踏まえながら、検討していく。

③ その他見直すべき点

- ・ 現時点（平成29年8月）では特になし。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	275		275
回復期	25		25
慢性期	100		100
(合計)	400		400

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床の在り方を検討	
2018年度	協議の結果を踏まえ必要に応じて具体的な病床計画を策定	引き続き、自施設の今後の病床の在り方を検討	
2019～2020年度	協議の結果を踏まえ必要に応じて具体的な病床計画を策定	引き続き、自施設の今後の病床の在り方を検討	
2021～2023年度	協議の結果を踏まえ必要に応じて具体的な病床計画を策定	引き続き、自施設の今後の病床の在り方を検討	



② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

- ・ 在宅医療の後方支援体制を図っていく観点から総合診療科分野について充実・強化を行っていく
- ・ 地域の救急対応の充実・強化に向けて救急診療科の新設など必要に応じて見直しを行う
- ・ 神経内科の新設及び脳神経外科の充実・強化により地域の神経ニューロモジュールセンター（神経機能調節センター）機能を担う

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 平成27年度 74.7%、平成28年度 74.5%  
平成29年度以降 85%以上を目標
- ・ 手術室稼働率 : 平成27年度 月平均40件、平成28年度 月平均116件  
平成29年度以降 月平均150件を目標
- ・ 紹介率 : 平成27年度 68.69%、平成28年度 70.95%  
平成29年度以降 85%以上を目標
- ・ 逆紹介率 : 平成27年度 53.21%、平成28年度 54.45%  
平成29年度以降 70%以上を目標

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率 : 平成27年度 54.5%、平成28年度 51.5%  
平成29年度以降 50%を目標
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 :  
平成27年度 0.1%、平成28年度 0.1%  
平成29年度以降 0.1%を維持

※計上にあたっては、本部で負担している研究研修費は含まない

その他 :

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

#### 【4. その他】

(自由記載)

- ・当院は、群馬県地域医療再生計画に基づき国立病院機構西群馬病院と渋川市立渋川総合病院が統合し、北毛地域の基幹病院として平成28年4月に開院した。
- ・西群馬病院が渋川医療センターへの移行したことによる数字では、平成27年度に対する昨年度（平成28年度）は、平均紹介患者が3.3倍、手術例数は3.0倍、外来患者数は1.9倍、救急患者数は5.3倍となっている。
- ・これにより、「中毛地域等に流れていた利根・沼田地域と吾妻地域の患者の受け入れ」と「渋川医療圏からの患者の流出の歯止め」という北毛地域の基幹病院に課された役割を果たしつつある。
- ・渋川医療センターを基幹病院とした北毛地域のICTを利用した医療連携ネットワークの構築により医療連携の強化を図り、将来的に情報の共有による医療・介護・関係機関の連携による地域包括ケアシステムに貢献する。（群馬県地域医療介護総合確保基金事業提案）

# 「公立病院経営強化プラン」・「公的医療機関等2025プラン」における医療機能等について

病院名	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	
所在地	群馬県渋川市白井383番地	
プランの別 (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> 公立病院経営強化プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 公的医療機関等2025プラン

## 1 地域において担う役割について

(該当するものに○)

・現在と将来(2025年)における、地域で担う役割(予定)

現在 (2022年)	<input checked="" type="checkbox"/>	がん	<input checked="" type="checkbox"/>	脳卒中	<input checked="" type="checkbox"/>	心血管疾患	<input checked="" type="checkbox"/>	糖尿病	<input type="checkbox"/>	精神	<input type="checkbox"/>	在宅医療
	<input checked="" type="checkbox"/>	救急	<input checked="" type="checkbox"/>	災害	<input type="checkbox"/>	へき地	<input type="checkbox"/>	周産期	<input type="checkbox"/>	小児	/	



将来 (2025年)	<input checked="" type="checkbox"/>	がん	<input checked="" type="checkbox"/>	脳卒中	<input checked="" type="checkbox"/>	心血管疾患	<input checked="" type="checkbox"/>	糖尿病	<input type="checkbox"/>	精神	<input type="checkbox"/>	在宅医療
	<input checked="" type="checkbox"/>	救急	<input checked="" type="checkbox"/>	災害	<input type="checkbox"/>	へき地	<input type="checkbox"/>	周産期	<input type="checkbox"/>	小児	/	

## 2 病床の機能ごとの方針について

(病床機能ごとの病床数)

・現在と将来(2025年)における病床の方針(予定)

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	400床	0床	275床	25床	100床	



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	400床	4床	265床	25床	106床	0床	0床

## 自医療機関のあり方について

医療機関名 国立病院機構渋川医療センター

### ① 現在の地域の急性期機能や人口とその推移等、医療機関を取り巻く環境を踏まえ、2025年を見据えた自医療機関の役割の整理

※周囲に医療機関が無く引き続き急性期機能を担う必要がある場合や、今回の分析対象となっていない診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要である場合等については、当該項目で記載願います。

#### ア 分析の対象とした領域（がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期、災害、へき地、研修・派遣機能）

○がん：北毛地域唯一の地域がん診療拠点病院として地域のがん診療を担っている。5大がんのみならず、血液悪性腫瘍、前立腺がんなど多くのがん疾患で外科、腫瘍内科、放射線治療医によるカンサーボードを実施している。

また、緩和ケア病棟を有しており在宅緩和ケアの支援強化を担い地域の中核医療機関として、回復期、や在宅医療機関との連携強化を今後とも担っていく使命がある。

○心疾患：同じ医療圏内に心疾患を専門とした「北関東循環器病院」近隣に「県立心臓血管病センター」があり、心疾患については連携の上、外来診療で両病院から医師に応援に来ていただき、入院診療が必要な患者については受入をお願いしている。今後についても連携の上診療を実施していきたい。

○脳卒中：現状限られた人材、設備の中で静注血栓溶解療法（rt-PA）治療等の1次的な対応については実施しており対応困難な症例については群馬大学医学部附属病院との連携協力の下診療を実施している。

自院だけで診療を完結する事は現状では、人的（脳外科医に加え常勤の循環器・脳神経内科の医師確保が必須）医療機器等の物的、SCU等の設備的に不十分である。また、脳卒中等緊急的な対応には24時間体制での診療体制が求められるが現状では対応が難しい。

○救急：平成28年4月に渋川地域医療圏の課題であった「救急医療の他医療圏への流失を防ぐ。」という目的で北毛の基幹病院として設立された経緯があり、当院に課せられた課題であり、当院では医療圏内の二次輪番日の3分の1を担当しており、医療圏内の他院との協力のもと診療科の機能分化を行い地域で完結出来る救急医療体制の充実・強化に今後とも尽力していきたい。

○小児：セーフティーネット診療である重症心身障害児（者）診療を継続し、市内の県立小児医療センターのポストNICUの機能を担える様役割を果たしていく。

○周産期：同じ医療圏内に群馬県立小児医療センターがあり、群馬県総合周産期母子医療センターとなっており、当院は今後この分野を担う事は考えていない。

○災害：行政と共同のうえその任務を今後とも遂行していく。

○研修・派遣機能：臨床研修指定病院の基幹病院であり、渋川医療圏のみならず、北毛の他医療圏へも医師を派遣しており、ハブ病院の役割を果たしている。

○へき地：同じ北毛地域の3病院（国立沼田、沼田脳外・西吾妻福祉）が担っている事業であり、今後当院が担う予定はない。

当院は地域医療構想に基づき、西群馬病院・渋川総合病院の統合時に既に一般病棟（含緩和ケア）を100床削減して開院している。一般病棟の患者数は年々上昇しており、群馬県北毛地域の基幹病院としての役割を果たすため病床の削減については検討していない。

## イ 分析の対象外の領域等

※ア以外の領域（アのうち、分析の対象とならなかった疾患を含む。（例えば、がんのうち、血液系がんや皮膚系がん等））

○当院は5大がんの他血液悪性腫瘍（悪性リンパ種・多発性骨髄種）、泌尿器疾患、皮膚科疾患の診療にも注力している。また機能的脳外科の分野で脳外科医を中心に多職種から構成されるニューロモジュレーションセンターを立ち上げ、従前県内で適切な治療を受けられず他県へ流出していたてんかんやパーキンソン病の患者を地元で治療が完結出来る様に地域の医療機関と連携の上適切な治療を受けられる様な体制の構築を進めている。当院は県内唯一の日本てんかん協会の認定研修施設であり、専門医の育成も使命も担っているとともに厚生労働省のてんかん地域診療連携体制整備事業の基つき都道府県に1カ所設置を進めている地域てんかん診療拠点病院の県指定を目指している。

慢性期病床として報告している重症心身障害児（者）100床は国立病院機構が担う政策医療としてセーフティーネット分野を担うと共に、地域内の県立小児医療センターのポストNICUを担える様役割を果たしていく。また、結核医療については群馬県保健医療計画に沿った結核医療の提供を担っていく必要があり、多くの診療科を有する当院の医療資源を活用して新たな診療モデルの結核医療を展開していく。

## ② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性

※該当する領域について、他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小等医療機能の方向性を記載願います。

領域	医療機能の方向性
がん	地域がん診療拠点病院としての役割を継続していく。
心疾患	近隣に心疾患専門医療機関である「北関東循環器病院」と協力のもと、入院診療については北関東循環器病院で担ってもらい診療の棲み分けを続けていく。
脳卒中	群馬大学医学部附属病院との連携のうえ今後とも当院が現状で担える一次的な対応については引き続き実施していく。
救急	二次医療圏内の病院で診療機能の分化を行い「地域内で完結出来る救急医療体制」の構築に他院との連携の上引き続き尽力していきたい。
小児	セーフティーネット診療である重症心身障害児（者）診療を継続し、県立小児医療センターのポストNICUの機能を担える様役割を今後とも果たしていく。
周産期	同じ医療圏内の県立小児医療センターが群馬県の総合周産期母子医療センターである事から当院がこの分野を担う事は考えていない。
災害	災害拠点病院として行政と共同の上その任務を今後も遂行していく。
へき地	北毛地域の他医療機関が既に担っていることから当院が担う事は考えていない。
研修・派遣機能	今後とも北毛地域のハブ病院として、医師派遣等中心的な役割を担っていく予定である。

③ ①及び②を踏まえた機能別の病床数の変動  
 具体的対応方針の作成当初の現在 (H29 病床機能報告)

計						介護施設等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
400床	0床	275床	25床	100床	0床	0床

見直し後の現在 (2023年)

計						介護施設等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
400床	0床	275床	25床	100床	0床	0床

具体的対応方針の作成当初の将来 (2025年)

計						介護施設等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
400床	0床	275床	25床	100床	0床	0床

見直し後の将来 (2025年)

計					廃止	介護施設等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期		
400床	4床	265床	25床	106床	0床	0床

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 1 月時点】

医療機関名	医療法人 菊栄会 渋川中央病院
所在地	群馬県渋川市石原508-1
沿革	<p>昭和57年：45床の内科・産婦人科の病院として開設。</p> <p>平成13年：隣接して渋川中央リハビリ病院を開院。一般病棟25床、療養病棟50床を設置。</p> <p>平成17年：一般病床60床に増床。</p> <p>平成18年：渋川中央病院と渋川中央リハビリ病院を統合。一般病床103床、療養病床50床を開始。</p> <p>現在に至る。</p>

## 2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	153 床	床	60 床	43 床	50 床	床
	平均在院日数(※1)	日 29.1	日 64.4	日 355.5	日	日
	病床稼働率(※2)	% 67.7	% 60.5	% 86.7	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	153 床	床	60 床	43 床	50 床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	<p>今後も救急医療・急性期医療を提供していくと共に、ポスト・アキュート、サブ・アキュート機能の充実を図る。</p> <p>リハビリテーション提供可能施設と透析施設を併せ持った医療機関として、回復期機能の充実を図るため、地域包括ケア入院医療管理料算定病床を急性期病床から一部転換を検討している。</p>
-------------------	---

## 3. 医療機能について

診療科目	14 科 ( 内科、外科、消化器外科、消化器内科、腎臓内科、リウマチ科、人工透析内科、血液内科、循環器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、泌尿器科、リハビリテーション科、婦人科 )
------	---

現在	がん	○	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	○	災害	○	へき地	○	周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		透析医療 リハビリテーション								



将来 (2025年)	がん	○	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	○	災害	○	へき地	○	周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		透析医療 リハビリテーション								

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学医学部附属病院	渋川医療センター	北毛病院
主な紹介先医療機関	群馬大学医学部附属病院	渋川医療センター	北関東循環器病院

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な リハビリテーション	<p>渋川地域における回復期リハビリテーション病棟は当院のみ。 リハビリスタッフ33名を擁し、365日リハビリテーションを実施している。退院後の維持期についても、通所リハビリ・訪問リハビリを提供し、在宅生活を支援している。 脳卒中地域連携バス・大腿骨頸部骨折地域連携バスに参加しており、地域連携を実践している。</p>
特徴的な 透析医療	<p>通院困難な透析患者様に対して、車椅子ごと乗車も可能な車両で送迎を実施。日本透析医学会教育関連施設。日本腎臓学会研修施設。 人工透析が必要な患者様へのリハビリテーションの提供。 日中に仕事をされる透析患者様の社会復帰を応援すべく月水金は夕方5時からの夜間透析も実施しています。</p>

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年7月より診療科目を増科し、診療体制が充実。</li> <li>救急病院として、24時間体制で常時待機しており、緊急時・時間外・休日・救急受入応需・入院応需が可能。</li> <li>当院には65床を備える透析室があり、170名近くの患者さんが血液透析を受けられている。</li> <li>圏域唯一の回復期リハビリテーション病棟を有し、急性期から維持期まで切れ目のないリハビリテーションを提供している。</li> </ul>
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>透析スタッフを増員し、患者様受け入れを充実させる。</li> <li>回復期リハビリテーション病棟入院料の上位ランク算定を目指し、病棟スタッフを充実させ、急性期終了後速やかに患者様の受け入れができるよう体制を整える。</li> <li>在宅療養支援機能を強化し、地域多機能型病院を目指す。</li> </ul>
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>内科系を中心に、各分野において高い専門性を持った医師やスタッフが急性期から慢性期まで、いろいろな疾患に対応しております。</li> <li>当院は365日、目覚めてから就寝までフルタイムで行う生活リハビリを実践し、楽しく、希望を持って行うリハビリテーションに取り組み効果を上げています。また病室から屋外スペースにもリハビリの場を広げ、ご家庭や社会生活への復帰を目指した取り組みがされています。一日も早い「家庭や社会への復帰」、そして何より、ご自身らしさを取り戻していただくために精一杯のお手伝いをさせていただきます。回復から復帰へ新たな生活へのスタートを応援します。</li> </ul>



# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 1 月時点】

医療機関名	北毛保健生活協同組合 北毛病院
所在地	群馬県渋川市有馬237-1
沿革	1953年 渋川協立診療所開設 1954年 名称変更 渋川診療所（10床） 1969年 新築移転（19床） 1972年 渋川診療所から北毛病院（23床） 1977年 新築移転（62床） 1986年 二期建設（増築）増床（130床） 1996年 三期建設（増築）増床（150床） 2015年 新築移転（150床）

## 2. 病床について （病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	150 床	床	100 床	床	50 床	床
	平均在院日数	日	12.9 日	日	88.9 日	日
	病床稼働率	%	94.6 %	%	92.8 %	%

- ※1 在棟患者延べ数（年間） / ( (新規入棟患者数（年間） + 退棟患者数（年間） ) / 2 )
- ※2 在棟患者延べ数（年間） / 許可病床数（現在） / 365
- ※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	150 床	床	100 床	床	50 床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し  
 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて医療を提供する機能を維持高度急性期後の患者受け入れも積極的に行う

## 3. 医療機能について

診療科目	9 科 ( 内科、外科、大腸・肛門外科、消化器外科、精神科、眼科、皮膚科、小児科、救急科 )
------	--

現在	がん	○	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	○	災害	○	へき地	○	周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		人間ドック他健診事業								



将来 (2025年)	がん	○	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	○	災害	○	へき地	○	周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能										

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学医学部付属病院	渋川医療センター	高崎総合医療センター
主な紹介先医療機関	北毛診療所		

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 高齢者を中心とした医療	高齢者をメインとする急性期から慢性期医療、救急から在宅までを幅広く担う。高齢者の急変への対応、三次救急医療機関等での高度急性期治療後の受入れなど、「切れ目のない」医療提供を行うケアミックス病院
特徴的な 在宅への対応	在宅を支援する病院として在宅医療を提供。また、開業医や介護事業所の後方支援病院として急変時の受け皿としての病床機能、高度急性期治療後の後方支援として在宅への中継点としての病床機能を発揮。

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	人口は減少するが、高齢化が著明な地域。在宅需要が増加している。北毛病院の病床は、地域の中でも短い在院日数かつ高い病床稼働率となっている。専門病院が多いため、幅広い領域をカバーし、自院の在宅患者の他、開業医や介護事業所の在宅患者など、複数の疾患と問題を抱える高齢者へ対し総合的に対応でき、気軽に利用できる地域密着型の病院としての役割を果たしている。
当院の未来像	①高齢化とそれに伴う疾患への対応：複数の疾患をかかえる高齢者に対し、特定の専門診療ではなく、患者の症状や状況を総合的に判断する診療、高齢者の暮らしを支える医療の提供。 ②救急医療への対応：初期診療から2次救急の受入。在宅患者の急変への対応。 ③在宅への対応：在宅医療提供の他、在宅の後方支援病院として急変時の受け皿としての病床機能、高度急性期後の後方支援として在宅への中継点としての病床機能を発揮。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	2015年3月に新病院を竣工しました。北毛病院は非常に難しい病気の診断や治療ができる最先端の医療機関ではありません。しかし、ほとんどの病気の診断および初療と、多くの病気のさまざまな段階での治療にいつでも対応できる医療機関として、この渋川の地において長年地域医療の一翼を担ってまいりました。引き続き、急性期から慢性期医療、救急から在宅までを幅広く担っています。急変への対応、基幹病院からの急性期後の受入れ可能な「切れ目のない」医療提供が可能なレベルと体制を維持・発展させることができる病院を目指します。

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 1 月時点】

医療機関名	北関東循環器病院
所在地	群馬県渋川市北橋町下箱田740
沿革	平成元年：一般病床（急性期）120床にて開院 平成10年：核医学検査装置導入 平成28年：外来棟増築 平成29年：一般病床44床を障害者病床（慢性期）として稼働 現在に至る

## 2. 病床について（病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	120 床	床	76 床	床	44 床	床
	平均在院日数	日	9.5 日	日	125.9 日	
	病床稼働率	%	85.6 %	%	96.6 %	

※1 在棟患者延べ数（年間）／（（新規入棟患者数（年間）＋退棟患者数（年間））／2）

※2 在棟患者延べ数（年間）／許可病床数（現在）／365

※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	120 床	床	76 床	床	44 床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環器疾患を中心とした高度医療を提供し、北毛・前橋地区を中心に救急医療に貢献していく。</li> <li>早期退院をサポートするリハビリテーションの強化を図る。</li> <li>地域医療を見据え高齢者医療の充実を図る。</li> </ul>
-------------------	--

## 3. 医療機能について

診療科目	12 科（内科、外科、循環器内科、心臓血管外科、眼科、整形外科、血管透析内科、リハビリテーション科、婦人科、放射線科、皮膚科、泌尿器科）
------	--

現在	がん	脳卒中	○ 心血管疾患	○ 糖尿病	精神疾患	在宅医療
	○ 救急	災害	○ へき地	周産期	小児	○ その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション、人間ドック等健康診断			



将来 (2025年)	がん	脳卒中	○ 心血管疾患	○ 糖尿病	精神疾患	在宅医療
	○ 救急	災害	○ へき地	周産期	小児	○ その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション、人間ドック等健康診断			

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学附属病院	前橋赤十字病院	渋川医療センター
主な紹介先医療機関	群馬大学附属病院	前橋赤十字病院	渋川医療センター

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 一貫した医療	内科、循環器内科、心臓血管外科、リハビリテーション科等あり、患者様を中心とし各科が連携を図り、急性期から社会復帰まで一貫した医療を提供している。
特徴的な チーム医療	患者様への治療に当たり、医師、看護師、コメディカルを含めたカンファレンスを行い、共通認識の良質な医療を提供している。

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	循環器疾患を中心とした専門的な医療を提供しており、地域医療として糖尿病疾患、腎臓内科、血液透析、消化器内科等北毛地区の救急医療にも貢献している。
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭から足まで循環器疾患を中心とした高度医療や救急医療を担う。</li> <li>・「かかりつけ医」と今まで以上に連携を図り、地域医療に貢献する。</li> </ul>
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器疾患を中心とした高度医療の提供はもちろん、地域医療とし糖尿病疾患、腎臓内科、血液透析、消化器内科等にも貢献しております。</li> <li>・早期社会復帰のサポートとなる各種リハビリテーションも充実しております。</li> </ul>

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 4 月時点】

医療機関名	医療法人群栄会田中病院
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町陣場98番地
沿革	昭和42年 133床（精神科）にて精神科専門病院として開院 昭和47年 医療法人群栄会田中病院設立。131床増床し264床（精神科）に 昭和53年 精神科病棟132床増床し396床に 平成 2年 内科病棟20床を設置 計416床に 平成12年 療養病棟（医療30床、介護25床）設置 計471床に 平成21年 内科病棟から障害者施設等病棟に 平成30年 療養病棟から特殊疾患病棟に

## 2. 病床について （病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	98 床	床	床	43 床	55 床	床
平均在院日数	日	日	63.7 日	1683.0 日		
病床稼働率	%	%	93.0 %	95.0 %		

※1 在棟患者延べ数（年間）／（（新規入棟患者数（年間）＋退棟患者数（年間））／2）

※2 在棟患者延べ数（年間）／許可病床数（現在）／365

※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	98 床	床	床	43 床	55 床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現状維持
-------------------	------

## 3. 医療機能について

診療科目	5 科（ 精神科、神経科、内科、心療内科、歯科 ）
------	---------------------------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	災害	へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能								


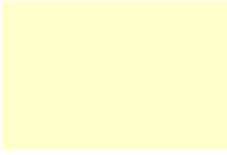


将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	災害	へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能								

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	前橋赤十字病院	第一病院	老年病付属病院
主な紹介先医療機関	前橋赤十字病院	第一病院	老年病付属病院

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 	高齢者の生活支援にも力を注ぎ、介護老人保健施設、特殊疾患病棟、認知症グループホーム、居宅介護支援事業所、認知症疾患医療センターも運営
特徴的な 	

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	現代社会のストレスがもたらす心身の不調や高齢化社会における認知症の診断、治療、リハビリ等に、専門スタッフが一丸となって、地域のご家庭を支える心のこもった優しい支援者として、日々努力を重ねています。
当院の未来像	連携を推進し、医療と介護の総合的なサービスを目指し、地域で安心して暮らせる環境を提供する
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	医療と介護サービスの向上、利用者の立場に立ったサービスに努め、個人の尊厳を大切に、自立した生活が送れるよう地域との連携を強化し、保健・医療・福祉の総合的一体的サービスの推進を目指して、一生懸命ご支援させていただきます。

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 1 月時点】

医療機関名	医療法人恒和会 関口病院
所在地	群馬県渋川市渋川1693-12
沿革	昭和11年10月 外科、泌尿器科関口診療所（東京都新宿区）開設 昭和18年5月 関口外科医院（渋川市新町）開設 昭和22年7月 住所を現在の渋川市渋川へ移転 昭和41年2月 関口病院となる 昭和63年5月 医療法人恒和会関口病院と改める 昭和63年11月 院長 関口欽五郎就任 平成27年2月 院長 関口浩五郎就任 令和4年6月 新病院へ移転 現在に至る

## 2. 病床について （病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	85 床	床	35 床	50 床	床	床
	平均在院日数(※1)	日 16.9	日 27.0	日	日	
	病床稼働率(※2)	% 72.9	% 73.5	%	%	

※1 在棟患者延べ数（年間） / （（新規入棟患者数（年間） + 退棟患者数（年間）） / 2）

※2 在棟患者延べ数（年間） / 許可病床数（現在） / 365

※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	85 床	床	35 床	50 床	床	床	床
	2025年に向けた病床活用の見直し	急性期医療を引き続き提供するとともに、急性期医療を終えた患者さんに対して、リハビリや退院支援などの提供、在宅医の依頼を受け在宅療養中の患者さんの受入などを強化するため、令和4年6月新病院移転時に回復期病床の増床を実施。					

## 3. 医療機能について

診療科目	12 科（ 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、内科、消化器内科（内視鏡）、内分泌・糖尿病内科、漢方内科、麻酔科、形成外科、泌尿器科、脳神経外科、外科 ）
------	---

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	○ 救急	災害	へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション						



将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	○ 救急	災害	へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション						

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川医療センター	群馬大学医学部附属病院	井口医院
主な紹介先医療機関	渋川医療センター	北毛病院	群馬大学医学部附属病院

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 診療体制	整形外科を中心とした医療を提供しているが、高齢者のプライマリケアなど幅広く対応している。急性期から回復期までの機能を持ち、在宅復帰を支援している。
特徴的な 救急体制	高齢者の外傷が主であるが、高齢者のプライマリケアも担っている。救急を断らない姿勢をとっており、直近の受入率は80%程度を維持している。

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急病院として、24時間365日、救急診療に対応できる体制を整えている。</li> <li>・二次医療圏の中では数少ない整形外科領域での入院、手術に対応している。</li> <li>・地域のクリニック、当院の訪問診療医より依頼を受け在宅療養中の患者さんの受入をしている。（レスパイトを含めて。）</li> <li>・訪問看護、居宅介護事業所などの在宅医療を強化し、患者さんの退院後のケアを行っている。。</li> </ul>
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期機能病床を充実させ、地域医療に貢献する。</li> <li>・より高度な手術に対応し、整形外科の更なる充実を図る。</li> <li>・地域の病院、診療所、介護施設などとの連携を深め、患者さんにとって利便性の高い病院を目指す。</li> <li>・在宅医療を強化し、患者サービスを充実させる。</li> </ul>
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会より信頼される病院を目指し、患者さんが必要とする医療の提供をしていきます。</li> </ul>



# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【2023年 1月時点】

医療機関名	母心堂平形眼科
所在地	群馬県渋川市石原966
沿革	大正年間中頃 平形医院として開設される。 昭和26年 平形医院に病棟建設、有床診療所となる。 その後、母心堂平形医院眼科として許可病床9床で運営されていた。 平成25年 母心堂平形眼科、病床数5床で届出を行い、診療を行っている。

## 2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	5 床	床	床	床	床	5 床
	平均在院日数	日	日	日	日	日
	病床稼働率	%	%	%	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	5 床	床	5 床	床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現在、病棟建設及び設備更新の計画中であり、当院隣接の県道拡幅工事予定に合わせ、県と協議の上、実施したい。 眼科手術や入院管理が必要とされる眼疾患に広く対応できる体制を構築する予定である。
-------------------	--

## 3. 医療機能について

診療科目	1 科(眼科)
------	---------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	○ へき地	周産期	小児	○ その他
	「その他」の具体的な機能	眼疾患全般の診療、小児眼科、ロービジョン対応				



将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	○ へき地	周産期	小児	○ その他
	「その他」の具体的な機能	眼科全般、小児眼科、ロービジョン対応、眼検診ドック				

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川中央病院	群馬中央病院	群馬大学附属病院
主な紹介先医療機関	群馬大学附属病院	いその眼科	高崎 佐藤眼科

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 小児眼科医療	乳幼児期の眼疾患の診療を特に行っている。 県立小児医療センター各科及び県内小児科から、眼疾患の疑いの患者の紹介を受け、診断・治療に当たっている。 必要に応じ、国立成育医療センターとも連携を図って対応している。
特徴的な ロービジョン対応	小児から成人まで、視機能回復困難な障害のある対象患者に対し、残存視機能の有効活用ができるよう指導・相談を行う。県立盲学校などの支援施設とも、連携を行っている。

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	病棟設備更新のため、外来診療を中心に行っているが、その中で当院で果たせる眼科診療全般について取り組んでいる。医療機器の進歩に合わせ、適切な装置の導入を図り、時代に即する医療の提供を心がけている。地方における人口減少にも関係するが、医療従事者の確立が課題となっている。
当院の未来像	防災・省エネルギー・バリアフリーを勘案した施設への移行、受診し易い、医療体制を構築する。 眼科医療を通じて、視覚の健全な保持を保ちつづけるよう、長寿社会に貢献できればと考えている。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	良好な眼の働きを保ち続けるのは、健康な生活を送るために、大切です。ほんの少しでも異常を感じる時は、早目の検査を受けることで、疾病が早期に発見されることもあります。 眼鏡ややコンタクトレンズの使い方も、誤って用いるために、不便さを感じてしまうこともあります。眼科専門医での検診をうけて下さい。

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【 2023 年 1 月時点】

医療機関名	有馬クリニック
所在地	群馬県渋川市有馬 1191-3
沿革	1993年6月に現院長神保進により8床を有する有床診療所として設立、診療開始す。主に泌尿器科疾患患者と慢性腎不全に対する血液透析患者を診療対象として診療に当たってきました。

## 2. 病床について (病床機能ごとの病床数 (一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	8 床	床	8 床	床	床	床
平均在院日数(※1)	日	5.0 日	日	日	日	
病床稼働率(※2)	%	60.0 %	%	%	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	8 床	床	8 床	床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現在と別段変わりはありません。現状維持です。
-------------------	------------------------

## 3. 医療機能について

診療科目	科 ( 泌尿器科 血液透析科 )
------	------------------

現在	<input type="checkbox"/> がん	<input type="checkbox"/> 脳卒中	<input type="checkbox"/> 心血管疾患	<input type="checkbox"/> 糖尿病	<input type="checkbox"/> 精神疾患	<input type="checkbox"/> 在宅医療
	<input type="checkbox"/> 救急	<input type="checkbox"/> 災害	<input type="checkbox"/> へき地	<input type="checkbox"/> 周産期	<input type="checkbox"/> 小児	<input type="checkbox"/> その他
	「その他」の具体的な機能 炭酸ガスレーザーにての皮膚腫瘍切除が可能です。					


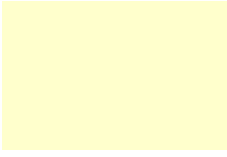


将来 (2025年)	<input type="checkbox"/> がん	<input type="checkbox"/> 脳卒中	<input type="checkbox"/> 心血管疾患	<input type="checkbox"/> 糖尿病	<input type="checkbox"/> 精神疾患	<input type="checkbox"/> 在宅医療
	<input type="checkbox"/> 救急	<input type="checkbox"/> 災害	<input type="checkbox"/> へき地	<input type="checkbox"/> 周産期	<input type="checkbox"/> 小児	<input type="checkbox"/> その他
	「その他」の具体的な機能					

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川医療センター	渋川地区医師会会員	
主な紹介先医療機関	渋川医療センター	群馬大学附属病院	済生会前橋病院

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 	泌尿器科の専門クリニック及び慢性腎不全に対して血液透析を施行しております。
特徴的な 	現在と特別変わり無

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	泌尿器科患者数は増加傾向に有りますが透析患者数は減少しております。
当院の未来像	現在と別段変りないと思っております。
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	泌尿器科専門クリニックです。泌尿器科疾患にはどんなことでも対応します。

# 2025年への対応方針

## 1. 基本情報

【2023年 1月時点】

医療機関名	医療法人社団悠育会クリニックオガワ
所在地	群馬県渋川市石原113
沿革	平成4年10月 クリニックオガワ開院 平成11年7月 医療法人開設

## 2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	19 床	床	19 床	床	床	床
	平均在院日数	日	6.7 日	日	日	日
	病床稼働率	%	35.3 %	%	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	19 床	床	19 床	床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現状、産科婦人科の専門病床のみだが、地域の医療情勢、当院の人員状況により変更の必要性があるかもしれないが、県北部の産科医療の保持の為には出来るだけ頑張りたいと考えている。
-------------------	---

## 3. 医療機能について

診療科目	1 科 (産婦人科)
------	------------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	〇 周産期	小児	その他
	「その他」の具体的な機能					

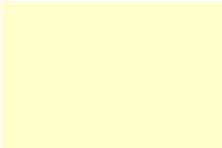
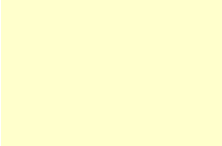


将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	〇 周産期	小児	その他
	「その他」の具体的な機能					

#### 4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関			
主な紹介先医療機関	県立小児医療センター	群馬大学病院	前橋日赤病院

#### 5. 当院の特徴について

特徴的な 	<p>渋川市の産婦人科専門医療機関です。</p>
特徴的な 	<p>分娩と産科緊急手術には、365日24時間対応可能な体制を堅持しています。</p>

#### 6. 現状と今後の方針等

当院の現状	<p>当院が開業した当時と比較すると群馬の出生数は半分程になっています。出生数の減少は県北部・山間部では顕著で、出生数の減少に伴う経営状態は年々厳しくなっていますが、産科医療の維持の為、従業員はもとより様々な無理をしいて産科医療の継続に頑張っているのが内情です。</p>
当院の未来像	<p>このまま出生数が減少するのなら産科医療の維持は非常に厳しいと思います。</p>
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	<p>既に結婚している方々に、「あと一人産んで下さい」その様な話は、それぞれに事情があり計画等があるのでしょうかから、難しい話なのだと思います。自治体ごとに自分の自治体に住んで下さいと言うのも単なる人のとりっこだけで、人口の増加にはなりません。行政・業界団体あげて、もっと結婚してもらおう等、直接的でも間接的でも出生数を増加させるような、なにがしかの対応を考えて行かないと、産科だけの話ではなく、医療介護業界の利用者も携わる人も、様々の業種産業において利用者がいなくなる、地方の人口は減少の一途、そんな未来となってしまうと思います。高齢化対策には公的資金が潤沢に供されていて参入も多いのですが、少子化対策に智恵と資金を使って頂く事を切に願う次第です。</p>

# 地域医療構想に関する 留意事項について

# 地域医療構想に関する留意事項と対応について

## 留意事項と対応

	留意事項	対応
1	<p><b>公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請に関する対応</b> (R2.1.17国通知)</p> <p>➤ 国の分析結果を踏まえた上で、再検証対象医療機関に該当する医療機関を中心に、公立・公的医療機関等の具体的対応方針について再検証するとともに、地域全体の医療提供体制について議論を尽くすよう国から要請された。</p>	<p>➤ 全公立・公的病院から検証後の具体的対応方針及び「自医療機関のあり方について」(様式)の説明及び地域保健医療対策協議会(地域医療構想調整会議)における協議</p>
2	<p><b>病床機能報告と地域医療構想の病床の必要量の差異に関する対応</b> (R5.3.31国通知)</p> <p>➤ 病床機能報告上の病床数と将来の病床の必要量について、データの特性だけでは説明できない差異が生じている(※)構想区域においては、当該構想区域の地域医療構想調整会議においてその要因の分析及び評価を行い、その結果を公表するよう国から要請された。</p>	<p>➤ 病床機能報告と地域医療構想の病床の必要量の違い(データの特性)に関する整理</p> <p>➤ 定量的な基準による分析</p> <p>➤ 多角的な観点の分析・取組</p>
3	<p><b>年度目標の設定について</b> (R5.3.31国通知)</p> <p>➤ 具体的対応方針の策定率(医療機関で作成した具体的対応方針を地域医療構想調整会議で合意したものの)の年度目標を設定するよう国から要請された。</p>	<p>➤ 令和5年度中に地域保健医療対策協議会(地域医療構想調整会議)で合意を得た具体的対応方針を100%とする</p>

※ 「データの特性だけでは説明できない差異が生じている」とは、病床機能報告に基づく地域の医療機能に過剰又は不足が生じている場合において、病床機能報告が病棟単位であることに起因する差異や、地域の実情に応じた定量的基準の導入により当該過剰又は不足について説明ができる場合を除き、これに該当する。



# 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請に関する対応①【留意事項1】

## 地域医療構想の実現に向けたさらなる取組について

第32回社会保障WG 資料1-1  
(令和元年5月23日)

- 2019年年央までに各医療機関の診療実績データを分析し、公立・公的医療機関等の役割が当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているか、合意された具体的対応方針を検証し、地域医療構想の実現に必要な協議を促進。

### 2. 今後の取り組み

- 合意形成された具体的対応方針の検証と構想の実現に向けた更なる対策

- 今後、2019年年央までに、全ての医療機関の診療実績データ分析を完了し、「**診療実績が少ない**」または「**診療実績が類似している**」と位置付けられた**公立・公的医療機関等**に対して、構想区域の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向等を踏まえつつ、**医師の働き方改革の方向性**も加味して、**当該医療機能の他の医療機関への統合や他の病院との再編統合**について、地域医療構想調整会議で協議し改めて合意を得るように要請する予定。

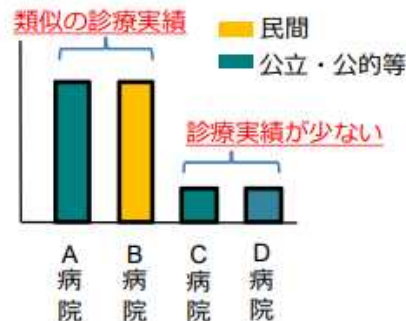
#### 分析内容

分析項目ごとに診療実績等の一定の指標を設定し、当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているか分析する。重点化が不十分な場合、他の医療機関による代替可能性があるとする。

- A 各分析項目について、診療実績が特に少ない。
- B 各分析項目について、構想区域内に、一定数以上の診療実績を有する医療機関が2つ以上あり、かつ、お互いの所在地が近接している。

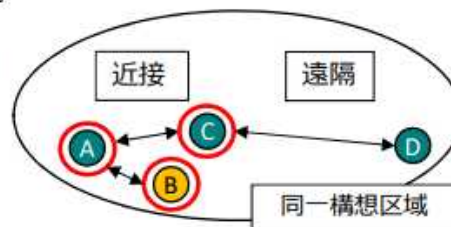
#### 分析のイメージ

- ①診療実績の**データ分析**  
(領域等(例:がん、救急等)ごと)



- ②地理的条件の**確認**

類似の診療実績がある場合のうち、**近接**している場合を確認



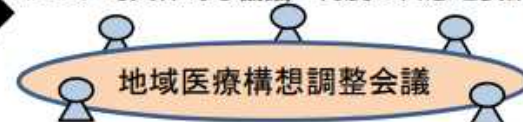
①及び②により「**代替可能性あり**」とされた公立・公的医療機関等

- ③分析結果を踏まえた地域医療構想調整会議における**検証**

医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向等を踏まえ、**医師の働き方改革の方向性**も加味して、

- **代替可能性のある機能の他の医療機関への統合**
- **病院の再編統合**

について具体的な協議・再度の合意を要請

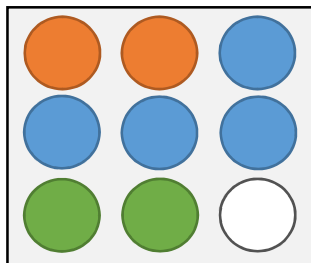


# 病床機能報告と地域医療構想の病床の必要量の違い①【留意事項2】

- 病床機能報告では、様々な病期の患者が混在していても病棟単位で一つの機能を選択する。
- 病床の必要量は、患者数をベースに病床単位で機能別の病床数を算出する。

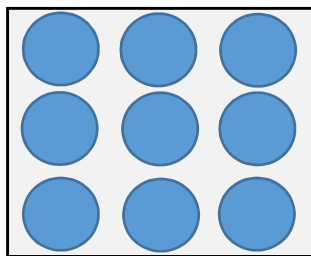
## 病床機能報告

例) ある病院の、ある病棟



実際の病棟内には様々な病期の患者が混在している

- 高度急性期の患者(病床)
- 急性期の患者(病床)
- 回復期の患者(病床)
- 空床



病床機能報告では、混在している中で、基本的に、一番患者数の多い病期を当該病棟の機能として報告する

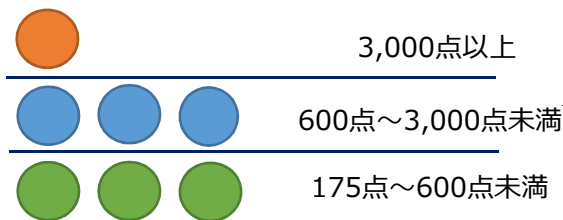
急性期病棟

↑この状態で報告される

## 地域医療構想の病床の必要量

### 2025年度の医療需要推計

※算出は地域全体で行うことに留意



2013年度の入院受療率  
(患者数/人口)  
(性・年齢階級別・4機能別)

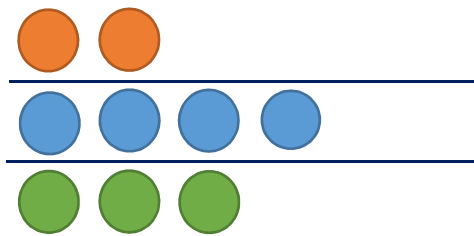


2025年度の推計人口  
(性・年齢階級別)

必ずしも一致しない

※ 患者の1日当たりの診療行為の出来高点数(入院基本料相当分・リハビリテーション料の一部を除く)

### 2025年度の病床の必要量



2025年度の医療需要推計



病床稼働率

(病床稼働率：高度急性期75%、急性期78%、回復期90%、慢性期92%)

# 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請に関する対応② 【留意事項 1】

医療機関施設名	設置主体	合計病床数	高度急性期病床数	急性期病床数	回復期病床数	慢性期病床数	休養中等病床数	稼働率(高度急性期・急性期病棟)	公立・公的医療機関等										A 診療実績が特に少ない										B 類似かつ近接					再検証要請対象医療機関	
									人口区分	基幹型臨床研修病院	特定機能病院	地域医療支援病院	災害拠点病院	へき地拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター	公的病院新改革プラン策定対象	公的病院等2025プラン対象	民間の地域医療支援病院	がん	心筋梗塞等の心血管疾患	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	災害医療	へき地医療	研修・派遣機能	該当数	がん	心筋梗塞等の心血管疾患	脳卒中	救急医療		小児医療
独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	独立行政法人地域医療機能推進機構	333	5	328	0	0	0	74%	○	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●					3	●	●	●	●	●	5
群馬県立心臓血管センター	8都道府県	190	15	175	0	0	0	66%	○	3													●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5		
群馬県済生会前橋病院	12済生会	327	63	264	0	0	0	78%	○	3	○	○	○										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6		
前橋赤十字病院	11日赤	586	510	76	0	0	0	86%	○	3	○	○	○										●					2	●	●	●	●	3		
群馬大学医学部附属病院	3国立大学法人	680	635	45	0	0	0	79%	○	3	○	○	○														1	●	●	●	●	●	3		
独立行政法人国立病院機構法川医療センター	独立行政法人国立病院機構	400	0	275	25	100	0	70%	○	4	○	○	○										●	●	●	●	●	5					5		
群馬県立小児医療センター	8都道府県	150	41	109	0	0	0	72%	○	4					○								●	●				5	●	●	●	●	4		
伊勢崎市市民病院	9市町村	494	106	388	0	0	0	80%	○	3	○	○	○										●					2	●				1		
一般社団法人伊勢崎佐波医師会病院	25その他の法人	255	0	205	0	50	0	74%	○	3													●	●	●	●	●	6	●	●	●	●	6		
公立碓氷病院	9市町村	199	0	113	0	50	36	45%	○	3													●	●	●	●	●	9	●	●	●	●	6		
医療法人社団日高会日高病院	20医療法人	287	4	232	51	0	0	86%	○	3	○	○	○														3			●	●	2			
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	独立行政法人国立病院機構	451	451	0	0	0	0	86%	○	3	○	○	○														1					0			
公立藤岡総合病院	9市町村	391	0	352	39	0	0	83%	○	5	○	○	○														1					0			
公立富岡総合病院	9市町村	334	6	328	0	0	0	88%	○	5	○	○											●					2		●			1		
下仁田厚生病院	9市町村	144	0	48	0	96	0	73%	○	5													●	●	●	●	●	9	●	●	●	●	6		
原町赤十字病院	11日赤	223	0	139	45	39	0	77%	○	5													●	●	●	●	●	6	●	●	●	●	4		
西吾妻福祉病院	9市町村	111	0	74	0	37	0	68%	○	5													●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	5		
独立行政法人国立病院機構沼田病院	独立行政法人国立病院機構	179	0	110	55	0	14	69%	○	5													●	●	●	●	●	5	●	●	●	●	5		
桐生厚生総合病院	9市町村	467	33	389	45	0	0	70%	○	4	○	○	○														1					0			
SUBARU健康保険組合太田記念病院	15健康保険組合及びその連合会	386	28	358	0	0	0	93%	○	3	○	○	○														2	●				1			
館林厚生病院	9市町村	323	8	231	84	0	0	84%	○	3	○	○	○														3			●	●	2			
群馬県立がんセンター	8都道府県	314	0	314	0	0	0	68%	○	3													●	●	●	●	●	8	●	●	●	●	5		

国分析により「●」（「A 診療実績が特に少ない」又は「B 類似かつ近接」）が付いた領域について、「自医療機関のあり方について」（県独自様式）により、当該領域の役割分担等について、該当医療機関に整理いただいた上で、地域全体の医療提供体制を踏まえ議論いただく。

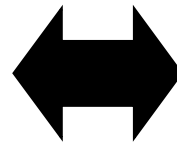
# 病床機能報告と地域医療構想の病床の必要量の違い②【留意事項2】

- 病床機能報告は、定性的な基準で医療機関の自主的な判断に基づき医療機能が選択される。
- 病床の必要量は、定量的な基準に基づき医療機能が決定される。
- 「サブアキュート」「ポストアキュート」患者が両者で異なる医療機能となる可能性がある。

## 病床機能報告

医療機能	医療機能の内容
高度急性期	・急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
急性期	・急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期	・急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ・特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）
慢性期	・長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能。 ・長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

サブアキュート・ポストアキュート患者が含まれている可能性



## 医療需要推計

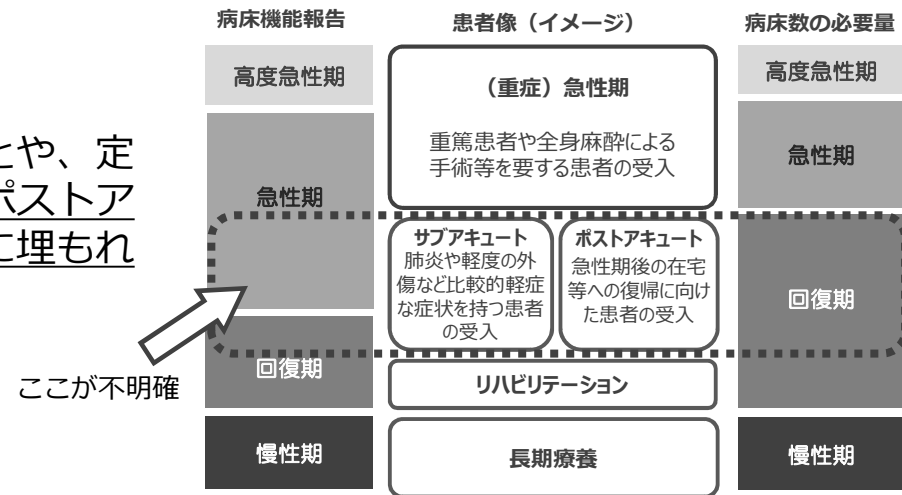
医療機能	国の医療需要推計における医療機能区分の内容
高度急性期	医療資源量：3,000点以上
急性期	医療資源量：600点～3,000点未満
回復期	医療資源量：175点～600点未満 +回復期リハビリテーション病棟入院料を算定した患者数
慢性期	〈一般病床〉 障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院基本料及び特殊疾患入院医療管理料を算定している患者 〈療養病床〉 療養病床（回復期リハビリテーション病棟入院料を算定した患者数を除く）－医療区分Ⅰの患者数の70%－地域差解消分

サブアキュート・ポストアキュート患者が含まれている可能性

# データの差異を踏まえた対応①（定量的な基準による分析）【留意事項2】

## ■ 病床機能報告の課題

「病床機能報告」は病棟単位の報告であることや、定義があいまいであるため、サブアキュート、ポストアキュートの患者の多くは、急性期の報告の中に埋もれてしまっている可能性がある。



## ■ 国の対応

※平成30年8月16日付け医政地発0816第1号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知(抜粋)

各都道府県は、地域医療構想調整会議における議論を活性化する観点から、平成30年度中に、医療関係者等と協議を経た上で、地域の実情に応じた定量的な基準を導入されたい。

## ■ 本県の対応

※平成31年3月28日付け県内医療機関あて周知

次の定量的な基準を用いて急性期と報告のあった病棟の診療実績を分析し、基準を満たす場合は(重症)急性期に、満たさない場合は回復期的急性期に分類する。

算定式：病棟単位の月あたりの件数÷30日（※）×（50床÷許可病床数）※R4報告以降は365日

分析項目及び基準：  
 手術総数算定回数「1」以上 or 病理組織標本作製算定回数「1」以上 or 化学療法算定日数「1」以上 or 救急医療加算管理レセプト件数「1」以上 or 呼吸心拍監視(3時間超7日以内)算定回数「2」以上

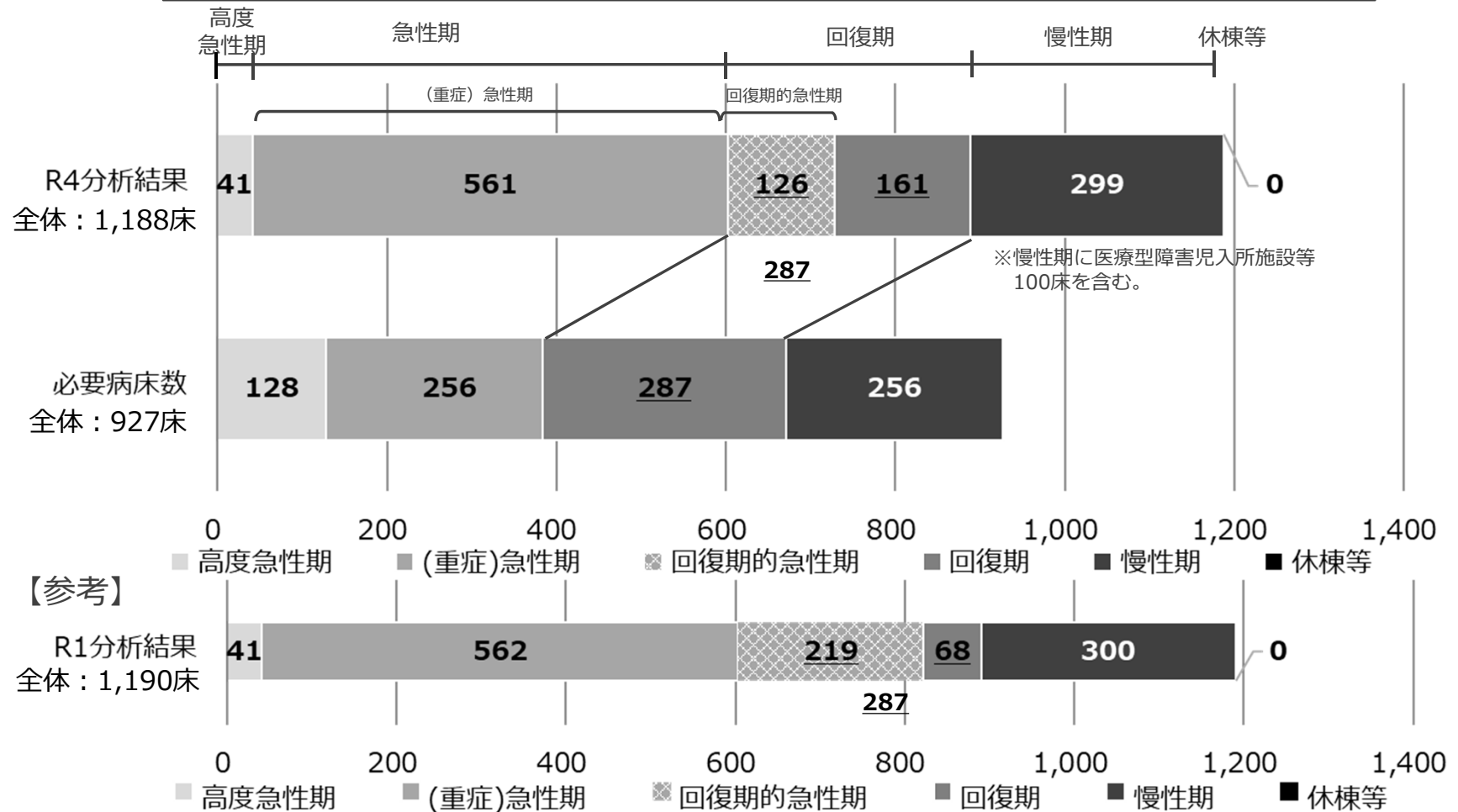
※R4報告以降は、上記項目に加え、地域包括ケア入院医療管理料1～4の病室単位の届出病床数を回復期的急性期に分類

# データの差異を踏まえた対応①（定量的な基準による分析）【留意事項2】

速報値 渋川

令和4年度病床機能報告で急性期と報告のあった圏域内の病床（687床）を分類

- 便宜上、**（重症）急性期**に分類される病床 : **561床**
- 便宜上、**回復期的急性期**に分類される病床 : **126床**



## データの差異を踏まえた対応②（多角的な分析・取組）【留意事項2】

### 現状・課題

- ▶ 地域医療構想の策定により将来における病床の必要量の推計値をお示したところ。
- ▶ 病床機能報告の病床数と病床の必要量は、データの差異が生じるものであることなどから、将来の医療提供体制を議論する上での目安のデータであり、削減目標や数合わせのための数値ではないことに留意し、様々な観点を踏まえ議論することが重要である。
- ▶ その上で、国の地域医療構想及び医師確保計画に関するワーキンググループにおいては、病床に偏った議論でなく、病院機能を踏まえた役割分担や地域固有の課題への取組等に関する議論の重要性について指摘がなされた。



### 対応の方向性

- ▶ 疾患別等の医療提供体制に関する状況（今後の医療需要のトレンドや病院ごとの診療実績等）について議論ができるよう多角的な観点から分析を行う（令和4年度に実施）。
- ▶ 具体的対応方針の協議では、施設ごとの役割・機能やその検討状況についても把握できるように議論の内容等について整理する（今回）。

# データの差異を踏まえた対応②（渋川保健医療圏の概況）【留意事項2】

渋川地域保健医療対策協議会地域医療構想部会（R4.10.25）

## 推計人口

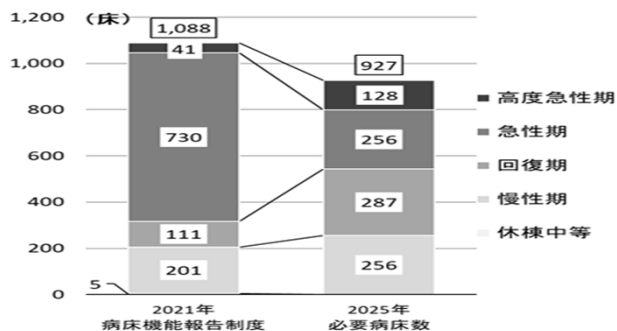
- ▶ 人口は既に減少局面
- ▶ 後期高齢者人口は2040年にかけて増加傾向

(千人)	2015	2025	2040
人口	114	105(8%減)	88(23%減)
うち65歳以上	32	36(1%増)	35(1%増)
うち75歳以上	16	20(25%増)	21(31%増)

※（ ）内は2015年比

## 医療機能

- ▶ 急性期で過剰、高度急性期・回復期・慢性期で不足（2025年の必要病床数との単純比較）
- ▶ ICUの医療提供量は全国平均を大きく上回る一方で、在宅医療の提供量は大きく下回る（SCRで比較）。在支病は圏域内に存在しない



## 診療報酬上の届出状況

種別	届出状況	内訳
ICU等	8床	小児医療センター 8
地ケア	112床	北毛病院50、関口病院50、渋川中央病院12
回り八	43床	渋川中央病院43
在支	18機関	支援病0、支援診18

## 将来の医療需要等の推計

- ▶ 全体の入院需要は2030年頃でピークアウト
- ▶ 呼吸器系、循環器系の疾患等で、今後入院需要の増加率が高い。
- ▶ 2015年から2040年にかけて、入院需要が、がんは1%増、脳卒中は15%増、心疾患は18%増、肺炎は26%増、骨折は16%増（各疾患2025～30年頃にピークアウト）

※ 急性期の医療ニーズについて、がん、虚血性心疾患は減少、脳梗塞は、急性期の治療件数が入院患者全体の増加ほどは伸びないことが見込まれるとの国の報告にも留意。

## 患者の受療動向及び診療領域ごとの状況等

※ 個別病院の入院患者の受入れ状況はDPCデータに基づくもので、DPC対象施設の急性期医療を中心とした記載

- ▶ 入院患者の流出率が高橋圏域と比較して高く、前橋保健医療圏への流出が多い。
- ▶ 渋川医療センターと小児医療センターは、他圏域から幅広く患者を受け入れている。
- ▶ 救急車による入院患者（DPCデータ）は、比較的幅広い病院で対応している。

領域	圏域内における状況
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の自足率は約68%で、前橋、高崎・安中に流出している。他圏域からの流入率は約52%と高く、前橋、吾妻、沼田等から患者を受け入れている。</li> <li>渋川医療センターを中心に入院患者を受け入れている。</li> </ul>
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の自足率は約30%で、前橋、高崎・安中、吾妻への流出が多い。また、救急搬送を契機とした入院では、自足率が約22%とさらに低くなる。</li> <li>渋川医療センター、北関東循環器病院、北毛病院で主に脳梗塞の入院患者に対応している。</li> </ul>
心疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の自足率は約60%で高くはないが、救急搬送を契機とした入院は自足率が約80%と高くなる。他圏域からの流入率は40%と高い。</li> <li>入院患者への対応は、北関東循環器病院を中心に受け入れており、心筋梗塞や狭心症の入院患者への対応は北関東循環器病院のみ、心不全は比較的幅広い病院で対応している。</li> </ul>
肺炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の自足率は約71%で、救急搬送を契機とした入院の自足率は約78%と高くなるが、他圏域と比べて自足率は低い。他圏域からの流入率は約19%となり、他疾患と比較すると低い傾向。</li> <li>入院患者への対応は、比較的幅広い病院で対応している。</li> </ul>
骨折	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の自足率は約60%、救急搬送を契機とした入院の自足率は約58%で、他圏域と比べて自足率は低い。</li> <li>他圏域からの流入率は約8%となり、他疾患と比較すると低い傾向。</li> <li>入院患者への対応は、渋川医療センター、関口病院を中心に行っている。</li> </ul>



# 病床機能報告と病床の必要量の比較で生じる差異に関する整理

## 現状等に関するまとめ

- 病床機能報告と地域医療構想の病床の必要量における算出方法等の違いにより、一定程度データに差異が生じる。
- サブアキュート・ポストアキュート患者により生じうるデータの差異の課題については、定量的な基準により「(重症)急性期」と「回復期的急性期」の分類を行うと、データの差異が一定程度解消される。
- これまでの報告結果に関する議論等を踏まえると、データの差異は、病床機能報告が「病棟単位で報告」されることによるところが大きいと考えられる。ただし、どれくらいの差異が生じているのかの定量化や解決に向けた方策について現時点で提示することは困難である。
- 疾患別等の多角的な観点から地域の医療提供体制の状況を確認すると、2025年に向けて、地域において(場合によっては圏域をまたいで広域的に)各医療機関が役割分担・連携しながら効率的で質の高い医療提供体制の構築に尽力いただいているといえる。

※ 心不全や肺炎、骨折等、今後医療需要が増加する疾患があるなど、医療需要のトレンドは疾患ごとに異なるため、引き続き、将来の医療需要等を見据えた地域の議論や各医療機関の検討が重要となる。

## 県の整理・方針案

- データの特性だけでは説明できない明らかな差異は生じていないと整理したい。
- 引き続き、病床機能の分化・連携に関する議論を進めつつ、多角的な観点を踏まえ、地域固有の課題に対する取組や今後の医療・介護需要の変化に対応したサービス提供体制に係る議論等を推進することが重要と考える。

### ■ 県内の取組事例

- ・ 例1：【遠隔医療】オンライン診療ステップアップ・プログラム(富岡保健医療圏)
- ・ 例2：【心血管疾患】運動負荷試験を使った心不全の早期診断に関する地域連携事業(前橋保健医療圏)

# 地域医療構想のこれまでの経緯及び国通知を踏まえた対応の方向性

参考：渋川地域保健医療対策協議会（R4.10.25）

## これまでの経緯

- 平成28年度に地域医療構想を策定した後、平成30年2月7日付け「地域医療構想の進め方について」（医政地発0207第1号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）により、各医療機関における具体的対応方針の策定が求められ、本県では平成30年度までに全ての対象医療機関において具体的対応方針が策定され、各保健医療圏の地域保健医療対策協議会（地域医療構想調整会議）において協議が完了している。
- 厚生労働省による診療実績等の分析が行われ、令和2年1月17日付け「公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について」（医政発0117第4号厚生労働省医政局長通知）により、公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等が要請された。
- その後、新型コロナウイルス感染症対応に配慮し、再検証等の期限を含め、今後の進め方については、厚生労働省において改めて整理の上、示されることとなった。

- 【厚生労働省】令和4年3月24日付け「地域医療構想の進め方について」（医政発0324第6号厚生労働省医政局長通知）
- 【総務省】令和4年3月29日付け「公立病院経営強化の推進について（通知）」（総財準第72号総務省自治財政局長通知）

## 国通知を踏まえた対応の方向性

- 厚生労働省から改めて整理の上、示されることとなっていた今後の進め方については、「2022年度及び2023年度において、公立・公的・民間医療機関における対応方針の策定や検証・見直しを行う」こととされた。
- このうち、公立病院については、「公立病院経営強化プラン」を具体的対応方針として策定することとされ、策定に当たり、「策定段階から地域医療構想調整会議を活用して関係者の意見を聴くなど、丁寧な合意形成に努めるべき」であるとされた。
- 各保健医療圏において地域保健医療対策協議会（地域医療構想調整会議）を開催し、改めて地域の現状や課題、将来の方向性等について、データ等に基づき協議・共有した上で、各医療機関において、地域医療構想を踏まえた対応方針の策定や検証・見直しができるよう取り組んでいく。

# 令和4年度病床機能報告の結果について

- 「病床機能報告」は、平成26年度から開始された制度であり、医療機関において、毎年その病床（一般病床及び療養病床を有する）が担う医療機能（現在の機能と2025年の予定）を、自ら選択し、病棟単位で報告するものです。
- 報告された事項は県ホームページで公表するほか、地域医療構想調整会議において情報共有するなど、医療機関の自主的な取組や地域医療構想の推進に向けて活用することとされています。
- 令和4年度病床機能報告の結果をとりまとめましたので、報告します。

## 1. 病床機能報告制度について

- ・平成26年6月の医療法改正で、医療機関がその有する病床（一般病床及び療養病床）において担っている医療機能の現状と今後の方向を自ら選択し、病棟単位を基本として都道府県に報告する病床機能報告制度が導入された。
- ・病床機能報告は、報告された情報を基に、地域の医療機関や住民等が、地域の医療提供体制の現状と将来の姿について共通認識を持つとともに、医療機関の自主的な取組や医療機関相互の協議等により、医療機能の分化・連携の推進を図ることを目的としており、令和4年度は制度開始後9回目の報告となる。

## 2. 報告項目

### （1）病床が担う医療機能（定性的な基準による自己報告）

「2022年（令和4年）」と「2025年（令和7年）」のそれぞれの7月1日時点における一般病床及び療養病床の医療機能について、病棟単位で高度急性期、急性期、回復期、慢性期のいずれかの機能を選択する。

※各医療機能の内容は裏面を参照

### （2）その他の項目

#### ① 構造設備・人員配置等に関する項目

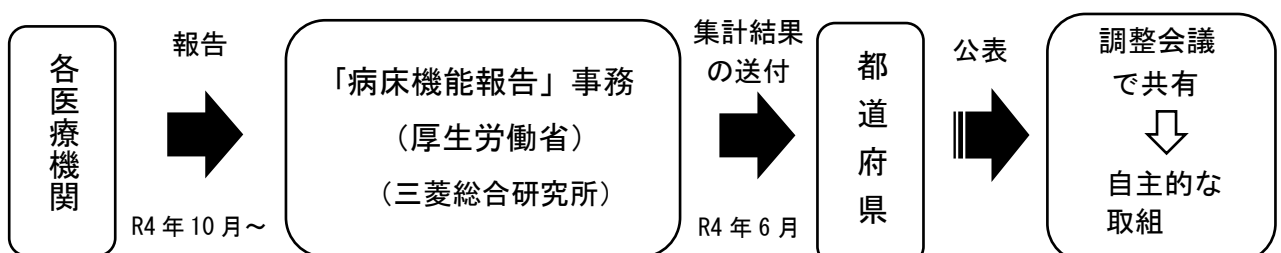
- ・病棟ごとの病床数・人員配置・医療機器・入院患者の状況など

#### ② 具体的な医療の内容に関する項目

- ・医療機関ごとの令和3年4月から令和4年3月診療分のレセプト等から必要項目を集計

※令和3年度病床機能報告から入院診療実績の報告が通年化

## 3. 病床機能報告の流れ



【参考】4つの医療機能

医療機能	医療機能の内容
<p>高度 急性期 機能</p>	<p>○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能</p> <p>※以下の入院基本料の算定病棟を含め、特定の入院基本料を算定していることをもって、ただちに高度急性期機能であることを示すものではない。医療資源投入量など実際に提供されている医療内容の観点から、高度急性期機能と判断されるものについて適切に報告すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1～3）</li> <li>・特定機能病院入院基本料（一般7対1入院基本料）</li> <li>・専門病院入院基本料（一般7対1入院基本料）</li> </ul> <p>※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例 救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室など、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟</p> <p>※算定する特定入院料の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急入院料（救命救急入院料1～4）</li> <li>・特定集中治療室管理料（特定集中治療室管理料1～4）</li> <li>・ハイケアユニット入院医療管理料（ハイケアユニット入院医療管理料1～2）</li> <li>・脳卒中ケアユニット入院医療管理料</li> <li>・小児特定集中治療室管理料</li> <li>・新生児特定集中治療室管理料（新生児特定集中治療室管理料1～2）</li> <li>・総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料）</li> <li>・新生児治療回復室入院医療管理料</li> </ul>
<p>急性期 機能</p>	<p>○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能</p> <p>※以下の入院基本料の算定病棟を含め、特定の入院基本料を算定していることをもって、ただちに急性期機能であることを示すものではない。医療資源投入量など、実際に提供されている医療内容の観点から急性期機能と判断されるものについて適切に報告すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1～7）</li> <li>・特定機能病院入院基本料（一般7対1入院基本料、一般10対1入院基本料）</li> <li>・専門病院入院基本料（一般7対1入院基本料、一般10対1入院基本料）</li> <li>・一般病棟入院基本料（地域一般入院料1～2）</li> <li>・専門病院入院基本料（一般13対1入院基本料）</li> </ul> <p>※算定する特定入院料の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア病棟入院料1～4、地域包括ケア入院医療管理料1～4）</li> </ul>
<p>回復期 機能</p>	<p>○急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能</p> <p>○特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）</p> <p>※以下の入院基本料の算定病棟を含め、医療資源投入量など、実際に提供されている医療内容の観点から回復期機能と判断されるものについて適切に報告すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料（急性期一般入院料4～7、地域一般入院料1～3）</li> <li>・特定機能病院入院基本料（一般10対1入院基本料）</li> <li>・専門病院入院基本料（一般10対1入院基本料、一般13対1入院基本料）</li> </ul> <p>※算定する特定入院料の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア病棟入院料1～4、地域包括ケア入院医療管理料1～4）</li> <li>・回復期リハビリテーション病棟入院料（回復期リハビリテーション病棟入院料1～5）</li> </ul>
<p>慢性期 機能</p>	<p>○長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能</p> <p>○長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能</p> <p>※以下の入院基本料の算定病棟を含め、医療資源投入量など、実際に提供されている医療内容の観点から慢性期機能と判断されるものについて適切に報告すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料（地域一般入院料1～3）</li> <li>・専門病院入院基本料（一般13対1入院基本料）</li> <li>・療養病棟入院基本料（療養病棟入院料1～2）</li> </ul> <p>※算定する特定入院料の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊疾患入院医療管理料</li> <li>・特殊疾患病棟入院料（特殊疾患病棟入院料1～2）</li> <li>・地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア病棟入院料1～4、地域包括ケア入院医療管理料1～4）</li> </ul>

# 令和4年度病床機能報告の集計結果

## 1. 結果概要

・全体の病床数は、18,302床（ハンセン病療養所及び医療型障害児入所施設等の病床を除く）  
 ・急性期病床は562床減少する一方、高度急性期病床は536床、回復期病床は42床増加  
 ・地域医療構想調整会議等での医療機能の分化・連携の議論を踏まえて、回復期への転換や病床を減少する病院等が見られた

## 2. 令和4年7月1日時点の病床機能

二次保健医療圏	小計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中 (再開予定)	休棟中 (廃止予定)	全体
前橋保健医療圏	3,635	1,248	1,502	553	332	6	0	3,641
渋川保健医療圏	1,088	41	687	161	199	0	0	1,088
伊勢崎保健医療圏	2,022	165	986	456	415	18	0	2,040
高崎・安中保健医療圏	3,566	501	1,384	683	998	0	0	3,566
藤岡保健医療圏	857	0	475	242	140	5	0	862
富岡保健医療圏	597	32	200	242	123	0	46	643
吾妻保健医療圏	764	0	191	262	311	7	0	771
沼田保健医療圏	982	38	506	256	182	14	11	1,007
桐生保健医療圏	1,602	33	766	358	445	60	6	1,668
太田・館林保健医療圏	2,976	34	2,004	345	593	13	27	3,016
<b>小計</b>	<b>18,089</b>	<b>2,092</b>	<b>8,701</b>	<b>3,558</b>	<b>3,738</b>	<b>123</b>	<b>90</b>	<b>18,302</b>
(構成割合)		(11.4%)	(47.5%)	(19.4%)	(20.4%)	(0.7%)	(0.5%)	
(R3比)	▲ 148	536	▲ 562	42	▲ 164	43		▲ 105
ハンセン病療養所の病床 (吾妻保健医療圏)	345				345	50		395
医療型障害児入所施設等の病床 (渋川、高崎・安中、桐生保健医療圏)	536				536			536
<b>合計</b>	<b>18,970</b>	<b>2,092</b>	<b>8,701</b>	<b>3,558</b>	<b>4,619</b>	<b>173</b>	<b>90</b>	<b>19,233</b>

※病床機能報告と許可病床が異なる病院あり。

## 3. 2025年7月1日（令和7年7月1日）時点の病床機能に係る集計結果(予定)

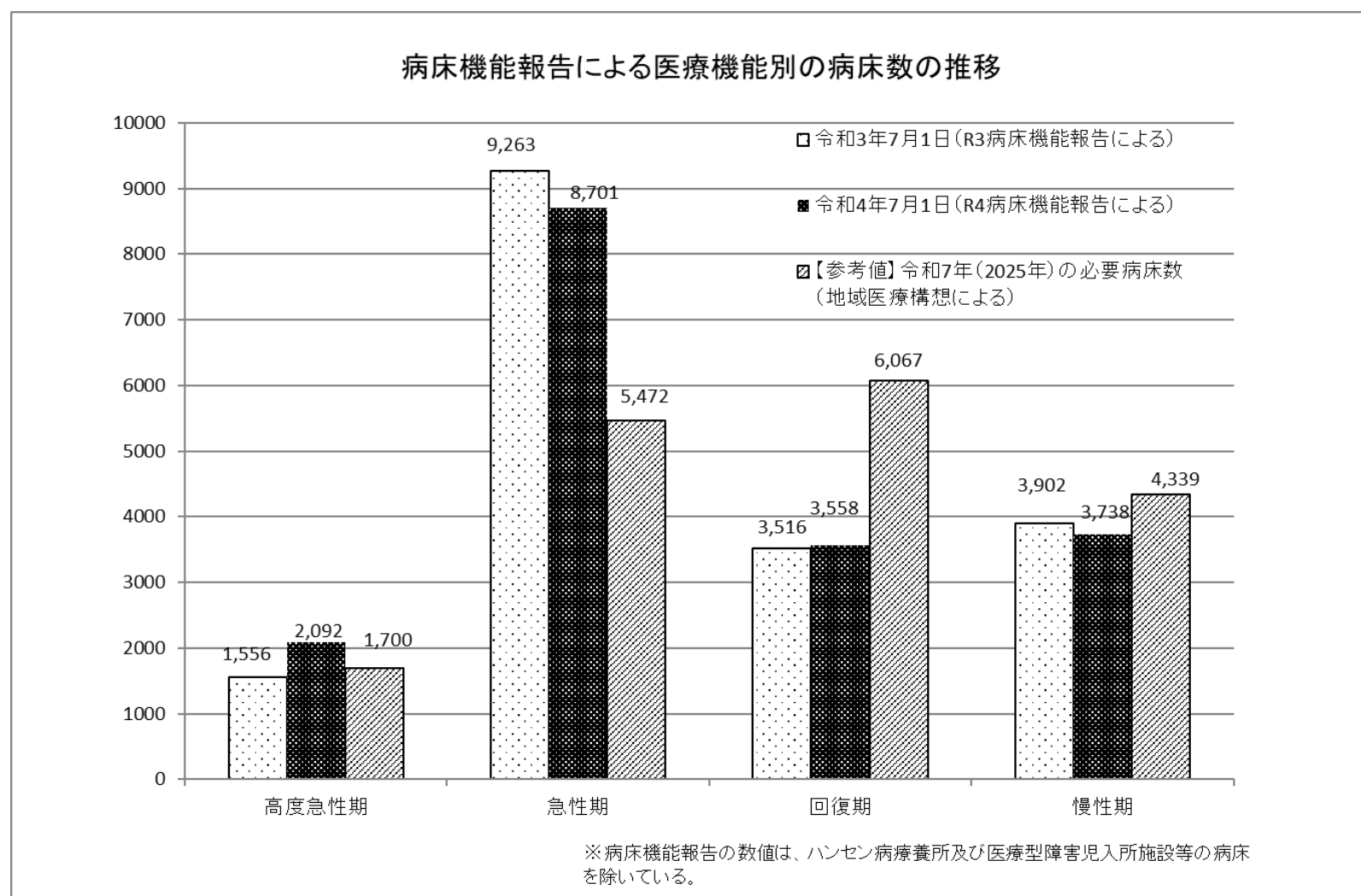
二次保健医療圏	小計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟予定	廃止予定	介護保険 施設等	全体
前橋保健医療圏	3,592	1,202	1,558	533	299	6	0	0	3,598
渋川保健医療圏	1,069	41	668	161	199	19	0	0	1,088
伊勢崎保健医療圏	2,022	168	983	456	415	0	0	0	2,022
高崎・安中保健医療圏	3,556	501	1,374	683	998	0	0	0	3,556
藤岡保健医療圏	857	0	433	284	140	5	0	0	862
富岡保健医療圏	593	32	200	238	123	0	0	0	593
吾妻保健医療圏	756	0	187	273	296	0	0	0	756
沼田保健医療圏	982	38	506	256	182	14	0	0	996
桐生保健医療圏	1,643	33	766	418	426	0	0	0	1,643
太田・館林保健医療圏	2,888	78	1,960	379	471	13	0	0	2,901
<b>小計</b>	<b>17,958</b>	<b>2,093</b>	<b>8,635</b>	<b>3,681</b>	<b>3,549</b>	<b>57</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>18,015</b>
(構成割合)		(0.4%)	(10.9%)	(2.1%)	(2.6%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	
(R4.7.1比)	▲ 131	1	▲ 66	123	▲ 189	▲ 156		—	▲ 287
ハンセン病療養所の病床 (吾妻保健医療圏)	345				345	50			395
医療型障害児入所施設等の病床 (渋川、高崎・安中、桐生保健医療圏)	536				536				536
<b>合計</b>	<b>18,839</b>	<b>2,093</b>	<b>8,635</b>	<b>3,681</b>	<b>4,430</b>	<b>107</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>18,946</b>

【参考①】 令和3年7月1日時点の病床機能（R3病床機能報告による）

二次保健医療圏	小計	R3病床機能報告による				休棟等	全体
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期		
前橋保健医療圏	3,635	1,204	1,486	522	423	6	3,641
渋川保健医療圏	1,083	41	730	111	201	5	1,088
伊勢崎保健医療圏	2,022	115	1,036	456	415	18	2,040
高崎・安中保健医療圏	3,594	59	1,839	757	939	19	3,613
藤岡保健医療圏	893	0	475	242	176	5	898
富岡保健医療圏	643	32	200	242	169	0	643
吾妻保健医療圏	793	0	213	262	318	0	793
沼田保健医療圏	982	38	506	256	182	25	1,007
桐生保健医療圏	1,608	33	766	364	445	60	1,668
太田・館林保健医療圏	2,984	34	2,012	304	634	32	3,016
<b>小計</b>	<b>18,237</b>	<b>1,556</b>	<b>9,263</b>	<b>3,516</b>	<b>3,902</b>	<b>170</b>	<b>18,407</b>
(構成割合)		(8.6%)	(50.3%)	(19.5%)	(21.7%)	(0.9%)	
ハンセン病療養所の病床 (吾妻保健医療圏)	395				345	50	395
医療型障害児入所施設等の病床 (渋川、高崎・安中、桐生保健医療圏)	523				523		523
<b>合計</b>	<b>19,155</b>	<b>1,556</b>	<b>9,263</b>	<b>3,516</b>	<b>4,770</b>	<b>220</b>	<b>19,325</b>

【参考②】 令和7年（2025年）における必要病床数の見込み（県地域医療構想）

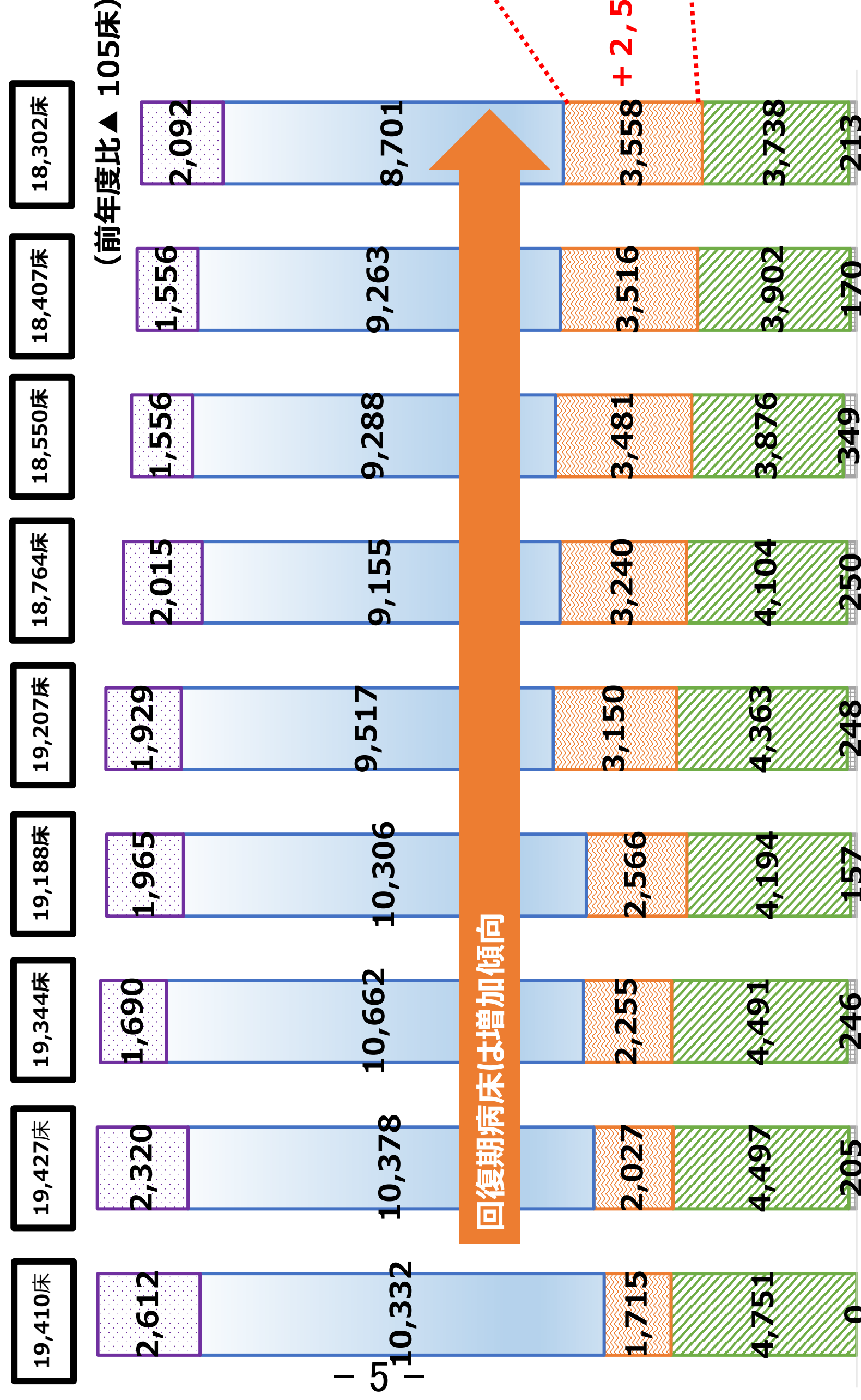
群馬県	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
	17,578	1,700 (9.7%)	5,472 (31.1%)	6,067 (34.5%)	4,339 (24.7%)



# 病床機能報告結果の推移

将来  
推計

全体病床数は平成27年度から減少傾向



2014 (H26) 年 2015 (H27) 年 2016 (H28) 年 2017 (H29) 年 2018 (H30) 年 2019 (R1) 年 2020 (R2) 年 2021 (R3) 年 2022 (R4) 年

■ 休棟等 ■ 慢性期 ■ 回復期 ■ 急性期 ■ 高度急性期

※ 病床機能報告の数値は、ハンセン病療養所及び医療型障害児入所施設等の病床を除いている。

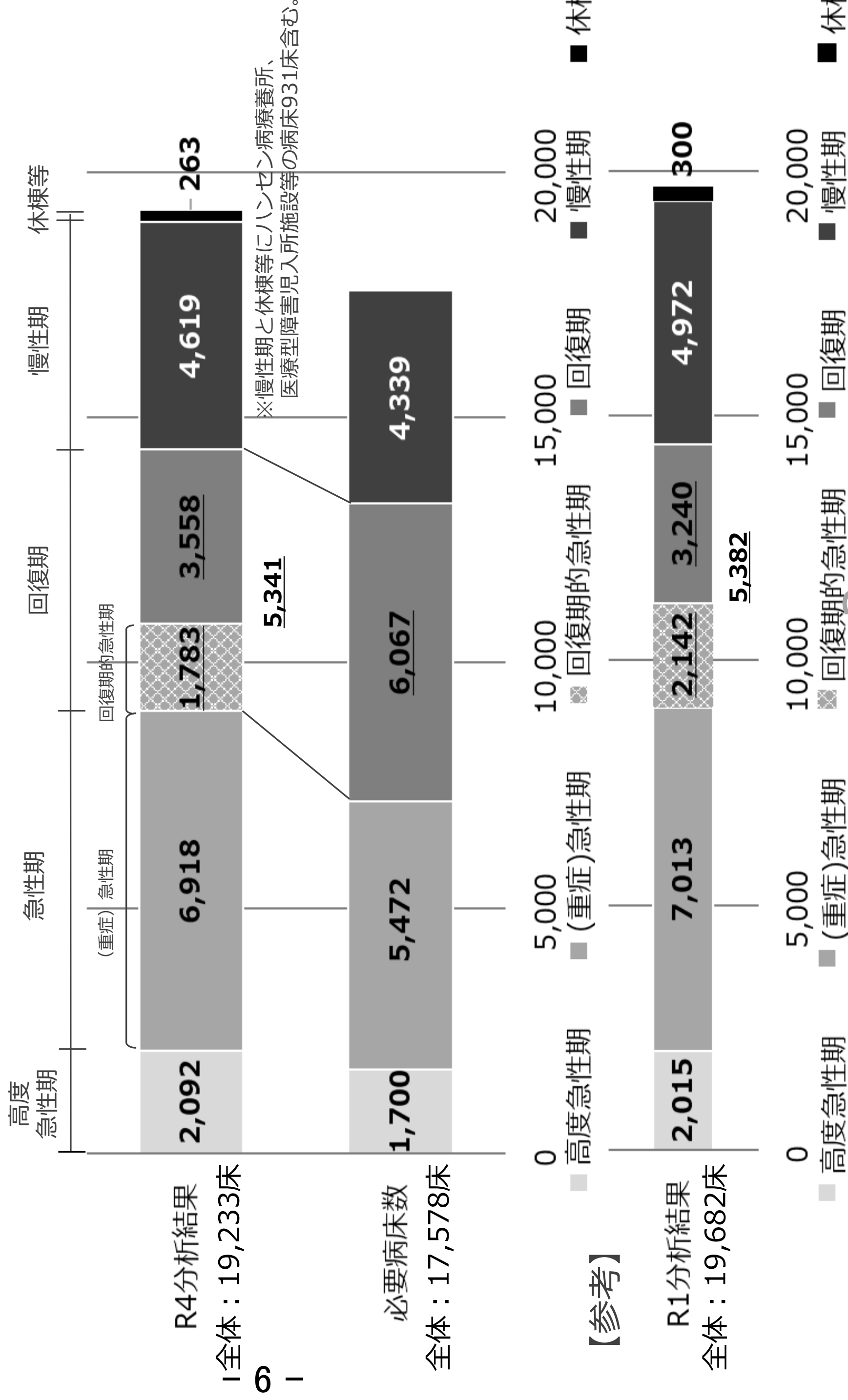
※ 令和7 (2025) 年の必要病床数と比較する際は、病床機能報告と算出方法等が異なることに留意が必要

# 定量的な基準による分析

県全体

令和4年度病床機能報告で急性期と報告のあった圏域内の病床（8,701床）を分類

- 便宜上、（重症）急性期に分類される病床 : 6,918床
- 便宜上、回復期的急性期に分類される病床 : 1,783床





# 令和4年度病床機能報告の結果について(前年度結果との比較)

## ○病床機能報告制度について

それぞれの地域における病床機能の分化・連携の推進のため、医療機関がその有する病床(一般病床及び療養病床)において担っている医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4区分)の現状と今後の方向性を選択し、病床単位を基本として報告する制度です。医療機能の報告のほかに、病床の設備や人員配置等に関する項目、具体的な医療の内容に関する項目などについても報告することとされており、都道府県は報告された事項を公表することとされています。(医療法第30条の13)

## ○医療機能の区分(概要)

【高度急性期】急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能  
 【急性期】急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能  
 【回復期】急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。  
 【慢性期】長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

## 1 県全体

【令和3年度(2021年度)報告】

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	1,556	9,263	3,516	4,770	220	19,325
(構成割合)	8.1%	47.9%	18.2%	24.7%	1.1%	—
うち病院	1,556	8,740	3,352	4,624	129	18,401
(構成割合)	8.5%	47.5%	18.2%	25.1%	0.7%	—
うち診療所	0	523	164	146	91	924
(構成割合)	0.0%	56.6%	17.7%	15.8%	9.8%	—

【令和4年度(2022年度)報告】

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	2,092	8,701	3,558	4,619	263	19,233
(構成割合)	10.9%	45.2%	18.5%	24.0%	1.4%	—
うち病院	2,092	8,194	3,438	4,454	188	18,366
(構成割合)	11.4%	44.6%	18.7%	24.3%	1.0%	—
うち診療所	0	507	120	165	75	867
(構成割合)	0.0%	58.5%	13.8%	19.0%	8.7%	—

【対前年度(2022年—2021年)】 ※下段は増減率

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	536	▲ 562	42	▲ 151	43	▲ 92
(構成割合)	34.4%	-6.1%	1.2%	-3.2%	19.5%	-0.5%
うち病院	536	▲ 546	86	▲ 170	59	▲ 35
(構成割合)	34.4%	-6.2%	2.6%	-3.7%	45.7%	-0.2%
うち診療所	0	▲ 16	▲ 44	19	▲ 16	▲ 57
(構成割合)	—	-3.1%	-26.8%	13.0%	-17.6%	-6.2%

## 2 構想区域別

【令和3年度(2021年度)報告】

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	1,556	9,263	3,516	4,770	220	19,325
(構成割合)	8.1%	47.9%	18.2%	24.7%	1.1%	—
前橋構想区域	1,204	1,486	522	423	6	3,641
(構成割合)	33.1%	40.8%	14.3%	11.6%	0.2%	—
渋川構想区域	41	730	111	301	5	1,188
(構成割合)	3.5%	61.4%	9.3%	25.3%	0.4%	—
伊勢崎構想区域	115	1,036	456	415	18	2,040
(構成割合)	5.6%	50.8%	22.4%	20.3%	0.9%	—
高崎・安中構想区域	59	1,839	757	1,162	19	3,836
(構成割合)	1.5%	47.9%	19.7%	30.3%	0.5%	—
藤岡構想区域	0	475	242	176	5	898
(構成割合)	0.0%	52.9%	26.9%	19.6%	0.6%	—
富岡構想区域	32	200	242	169	0	643
(構成割合)	5.0%	31.1%	37.6%	26.3%	0.0%	—
吾妻構想区域	0	213	262	663	50	1,188
(構成割合)	0.0%	17.9%	22.1%	55.8%	4.2%	—
沼田構想区域	38	506	256	182	25	1,007
(構成割合)	3.8%	50.2%	25.4%	18.1%	2.5%	—
桐生構想区域	33	766	364	645	60	1,868
(構成割合)	1.8%	41.0%	19.5%	34.5%	3.2%	—
太田・館林構想区域	34	2,012	304	634	32	3,016
(構成割合)	1.1%	66.7%	10.1%	21.0%	1.1%	—

【令和4年度(2022年度)報告】

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	2,092	8,701	3,558	4,619	263	19,233
(構成割合)	10.9%	45.2%	18.5%	24.0%	1.4%	—
前橋構想区域	1,248	1,502	553	332	6	3,641
(構成割合)	34.3%	41.3%	15.2%	9.1%	0.2%	—
渋川構想区域	41	687	161	299	0	1,188
(構成割合)	3.5%	57.8%	13.6%	25.2%	0.0%	—
伊勢崎構想区域	165	986	456	415	18	2,040
(構成割合)	8.1%	48.3%	22.4%	20.3%	0.9%	—
高崎・安中構想区域	501	1,384	683	1,234	0	3,802
(構成割合)	13.2%	36.4%	18.0%	32.5%	0.0%	—
藤岡構想区域	0	475	242	140	5	862
(構成割合)	0.0%	55.1%	28.1%	16.2%	0.6%	—
富岡構想区域	32	200	242	123	46	643
(構成割合)	5.0%	31.1%	37.6%	19.1%	7.2%	—
吾妻構想区域	0	191	262	656	57	1,166
(構成割合)	0.0%	16.4%	22.5%	56.3%	4.9%	—
沼田構想区域	38	506	256	182	25	1,007
(構成割合)	3.8%	50.2%	25.4%	18.1%	2.5%	—
桐生構想区域	33	766	358	645	66	1,868
(構成割合)	1.8%	41.0%	19.2%	34.5%	3.5%	—
太田・館林構想区域	34	2,004	345	593	40	3,016
(構成割合)	1.1%	66.4%	11.4%	19.7%	1.3%	—

【対前年度(2022年—2021年)】 ※下段は増減率

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
県全体	536	▲ 562	42	▲ 151	43	▲ 92
(構成割合)	34.4%	-6.1%	1.2%	-3.2%	19.5%	-0.5%
前橋構想区域	44	16	31	▲ 91	0	0
(構成割合)	3.7%	1.1%	5.9%	-21.5%	0.0%	0.0%
渋川構想区域	0	▲ 43	50	▲ 2	▲ 5	0
(構成割合)	0.0%	-5.9%	45.0%	-0.7%	0.0%	0.0%
伊勢崎構想区域	50	▲ 50	0	0	0	0
(構成割合)	43.5%	-4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高崎・安中構想区域	442	▲ 455	▲ 74	72	▲ 19	▲ 34
(構成割合)	749.2%	-24.7%	-9.8%	6.2%	-100.0%	-0.9%
藤岡構想区域	0	0	0	▲ 36	0	▲ 36
(構成割合)	—	—	—	-20.5%	—	-4.0%
富岡構想区域	0	0	0	▲ 46	46	0
(構成割合)	0.0%	0.0%	0.0%	-27.2%	0.0%	0.0%
吾妻構想区域	0	▲ 22	0	▲ 7	7	▲ 22
(構成割合)	—	-10.3%	0.0%	-1.1%	14.0%	-1.9%
沼田構想区域	0	0	0	0	0	0
(構成割合)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
桐生構想区域	0	0	▲ 6	0	6	0
(構成割合)	0.0%	0.0%	-1.6%	0.0%	10.0%	0.0%
太田・館林構想区域	0	▲ 8	41	▲ 41	8	0
(構成割合)	0.0%	-0.4%	13.5%	-6.5%	25.0%	0.0%

### 3 医療機関別

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
前橋	病院	群馬大学医学部附属病院	634	46	0	0	0	680
前橋	病院	前橋赤十字病院	487	0	40	0	0	527
前橋	病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	5	328	0	0	0	333
前橋	病院	群馬県済生会前橋病院	63	238	22	0	0	323
前橋	病院	公益財団法人老年病研究所附属病院	0	139	114	0	0	253
前橋	病院	善衆会病院	0	156	42	0	0	198
前橋	病院	群馬県立心臓血管センター	15	175	5	0	0	195
前橋	病院	前橋協立病院	0	105	51	33	0	189
前橋	病院	医療法人社団敬寿会前橋城南病院	0	0	0	161	0	161
前橋	病院	上武呼吸器科内科病院	0	60	0	60	0	120
前橋	病院	医療法人相生会わかば病院	0	0	60	42	0	102
前橋	病院	医療法人積心会 富沢病院	0	48	32	0	0	80
前橋	病院	東前橋整形外科病院	0	40	20	0	0	60
前橋	病院	山王リハビリテーション病院	0	0	0	50	0	50
前橋	病院	群馬ペインクリニック病院	0	0	50	0	0	50
前橋	病院	医療法人前橋北病院	0	0	40	0	0	40
前橋	病院	横田マタニティーホスピタル	0	35	0	0	0	35
前橋	病院	医療法人中沢会 上毛病院	0	0	0	20	0	20
前橋	診療所	宮久保眼科	0	6	0	0	0	6
前橋	診療所	医療法人社団三矢会 上毛大橋クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	前橋温泉クリニック	0	0	8	0	0	8
前橋	診療所	西片貝クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	あさくらスポーツリハビリテーションクリニック	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	山本整形外科医院	0	0	0	0	6	6
前橋	診療所	星医院	0	0	19	0	0	19
前橋	診療所	ヒルズレディースクリニック	0	18	0	0	0	18

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
前橋	病院	群馬大学医学部附属病院	680	0	0	0	0	680
前橋	病院	前橋赤十字病院	487	0	40	0	0	527
前橋	病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	5	328	0	0	0	333
前橋	病院	群馬県済生会前橋病院	61	240	22	0	0	323
前橋	病院	公益財団法人老年病研究所附属病院	0	139	114	0	0	253
前橋	病院	善衆会病院	0	156	42	0	0	198
前橋	病院	群馬県立心臓血管センター	15	175	5	0	0	195
前橋	病院	前橋協立病院	0	105	51	33	0	189
前橋	病院	医療法人社団敬寿会前橋城南病院	0	60	0	101	0	161
前橋	病院	上武呼吸器科内科病院	0	60	0	60	0	120
前橋	病院	医療法人相生会わかば病院	0	0	60	42	0	102
前橋	病院	医療法人積心会 富沢病院	0	48	32	0	0	80
前橋	病院	東前橋整形外科病院	0	40	20	0	0	60
前橋	病院	山王リハビリテーション病院	0	0	50	0	0	50
前橋	病院	群馬ペインクリニック病院	0	0	50	0	0	50
前橋	病院	医療法人前橋北病院	0	0	40	0	0	40
前橋	病院	横田マタニティーホスピタル	0	35	0	0	0	35
前橋	病院	医療法人中沢会 上毛病院	0	0	0	20	0	20
前橋	診療所	宮久保眼科	0	6	0	0	0	6
前橋	診療所	医療法人社団三矢会 上毛大橋クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	前橋温泉クリニック	0	0	8	0	0	8
前橋	診療所	西片貝クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	あさくらスポーツリハビリテーションクリニック	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	山本整形外科医院	0	0	0	0	6	6
前橋	診療所	星医院	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	ヒルズレディースクリニック	0	18	0	0	0	18

【対前年度(2022年—2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
前橋	病院	群馬大学医学部附属病院	46	▲ 46	0	0	0	0	当該病棟の高度急性期患者の割合が多くなったため。
前橋	病院	前橋赤十字病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	群馬県済生会前橋病院	▲ 2	2	0	0	0	0	ハイケアユニット16床→14床、循環器内科・心臓血管外科病棟 41床→43床の病棟編成の変更あり。
前橋	病院	公益財団法人老年病研究所附属病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	善衆会病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	群馬県立心臓血管センター	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	前橋協立病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	医療法人社団敬寿会前橋城南病院	0	60	0	▲ 60	0	0	最近救急車も受入れ、急性期の患者が多くなったため。
前橋	病院	上武呼吸器科内科病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	医療法人相生会わかば病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	医療法人積心会 富沢病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	東前橋整形外科病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	山王リハビリテーション病院	0	0	50	▲ 50	0	0	令和3年度病床機能報告で慢性期と誤って報告したため。
前橋	病院	群馬ペインクリニック病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	医療法人前橋北病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	横田マタニティーホスピタル	0	0	0	0	0	0	
前橋	病院	医療法人中沢会 上毛病院	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	宮久保眼科	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	医療法人社団三矢会 上毛大橋クリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	前橋温泉クリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	西片貝クリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	あさくらスポーツリハビリテーションクリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	山本整形外科医院	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	星医院	0	0	▲ 19	19	0	0	
前橋	診療所	ヒルズレディースクリニック	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
前橋	診療所	医療法人社団豊医会 小沢医院	0	14	0	0	0	14
前橋	診療所	医療法人康倭会しらかわ診療所	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	中嶋医院	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	マザーズクリニックTAMURA	0	15	0	0	0	15
前橋	診療所	医療法人 さるきクリニック	0	6	0	0	0	6
前橋	診療所	前橋広瀬川クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	うしいけ内科クリニック	0	0	0	19	0	19
渋川	病院	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	0	275	25	100	0	400
渋川	病院	渋川中央病院	0	60	43	50	0	153
渋川	病院	群馬県立小児医療センター	41	109	0	0	0	150
渋川	病院	北毛保健生活協同組合北毛病院	0	100	0	50	0	150
渋川	病院	北関東循環器病院	0	74	0	46	0	120
渋川	病院	群栄会田中病院	0	0	43	55	0	98
渋川	病院	医療法人恒和会 関口病院	0	85	0	0	0	85
渋川	診療所	まつい女性クリニック	0	0	0	0	0	0
渋川	診療所	母心堂平形眼科	0	5	0	0	0	5
渋川	診療所	有馬クリニック	0	8	0	0	0	8
渋川	診療所	医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	病院	伊勢崎市民病院	106	367	17	0	0	490
伊勢崎	病院	鶴谷病院	0	90	92	138	0	320
伊勢崎	病院	一般社団法人伊勢崎佐波医師会病院	0	153	52	50	0	255
伊勢崎	病院	伊勢崎福島病院	0	43	94	95	0	232
伊勢崎	病院	公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院	9	36	99	45	0	189
伊勢崎	病院	医療法人石井会石井病院	0	145	43	0	0	188
伊勢崎	病院	角田病院	0	30	48	47	0	125
伊勢崎	病院	せせらぎ病院	0	49	0	0	0	49

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
前橋	診療所	医療法人社団豊医会 小沢医院	0	14	0	0	0	14
前橋	診療所	医療法人康倭会しらかわ診療所	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	中嶋医院	0	19	0	0	0	19
前橋	診療所	マザーズクリニックTAMURA	0	15	0	0	0	15
前橋	診療所	医療法人 さるきクリニック	0	6	0	0	0	6
前橋	診療所	前橋広瀬川クリニック	0	0	0	19	0	19
前橋	診療所	うしいけ内科クリニック	0	0	19	0	0	19
渋川	病院	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	0	275	25	100	0	400
渋川	病院	渋川中央病院	0	60	43	50	0	153
渋川	病院	群馬県立小児医療センター	41	109	0	0	0	150
渋川	病院	北毛保健生活協同組合北毛病院	0	100	0	50	0	150
渋川	病院	北関東循環器病院	0	76	0	44	0	120
渋川	病院	群栄会田中病院	0	0	43	55	0	98
渋川	病院	医療法人恒和会 関口病院	0	35	50	0	0	85
渋川	診療所	まつい女性クリニック	0	0	0	0	0	0
渋川	診療所	母心堂平形眼科	0	5	0	0	0	5
渋川	診療所	有馬クリニック	0	8	0	0	0	8
渋川	診療所	医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	病院	伊勢崎市民病院	156	317	17	0	0	490
伊勢崎	病院	鶴谷病院	0	90	92	138	0	320
伊勢崎	病院	一般社団法人伊勢崎佐波医師会病院	0	153	52	50	0	255
伊勢崎	病院	伊勢崎福島病院	0	43	94	95	0	232
伊勢崎	病院	公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院	9	36	99	45	0	189
伊勢崎	病院	医療法人石井会石井病院	0	145	43	0	0	188
伊勢崎	病院	角田病院	0	30	48	47	0	125
伊勢崎	病院	せせらぎ病院	0	49	0	0	0	49

【対前年度(2022年-2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
前橋	診療所	医療法人社団豊医会 小沢医院	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	医療法人康倭会しらかわ診療所	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	中嶋医院	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	マザーズクリニックTAMURA	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	医療法人 さるきクリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	前橋広瀬川クリニック	0	0	0	0	0	0	
前橋	診療所	うしいけ内科クリニック	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	渋川中央病院	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	群馬県立小児医療センター	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	北毛保健生活協同組合北毛病院	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	北関東循環器病院	0	2	0	▲2	0	0	病棟・病室の編成を変更したため。
渋川	病院	群栄会田中病院	0	0	0	0	0	0	
渋川	病院	医療法人恒和会 関口病院	0	▲50	50	0	0	0	病院建て替えに伴う病棟再編によるもの。
渋川	診療所	まつい女性クリニック	0	0	0	0	0	0	
渋川	診療所	母心堂平形眼科	0	0	0	0	0	0	
渋川	診療所	有馬クリニック	0	0	0	0	0	0	
渋川	診療所	医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	伊勢崎市民病院	50	▲50	0	0	0	0	医療提供体制に変更はないが、当該病棟に高度急性期患者が増えたため。
伊勢崎	病院	鶴谷病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	一般社団法人伊勢崎佐波医師会病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	伊勢崎福島病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	医療法人石井会石井病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	角田病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	病院	せせらぎ病院	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
伊勢崎	病院	大島病院	0	0	0	40	0	40
伊勢崎	診療所	フクイ産婦人科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	あかつきウィメンズクリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	医療法人望真会 古作クリニック	0	13	0	0	0	13
伊勢崎	診療所	渡辺内科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	新生産婦人科医院	0	17	0	0	0	17
伊勢崎	診療所	医療法人社団真正会 南部眼科	0	5	0	0	0	5
伊勢崎	診療所	高柳整形外科歯科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	医療法人 笹木会 笹木外科胃腸科	0	0	0	18	18	18
伊勢崎	診療所	セントラルクリニック伊勢崎	0	8	0	0	0	8
伊勢崎	診療所	アベ眼科医院	0	4	0	0	0	4
伊勢崎	診療所	一般社団法人伊勢崎佐野医師会附属成人病棟センター診療所	0	0	11	0	0	11
高崎・安中	病院	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	37	442	0	0	0	479
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高病院	4	232	51	0	0	287
高崎・安中	病院	榛名荘病院	0	80	59	60	0	199
高崎・安中	病院	第一病院	0	99	47	47	0	193
高崎・安中	病院	医療法人真木会真木病院	0	99	51	0	0	150
高崎・安中	病院	高瀬記念病院	0	0	55	85	0	140
高崎・安中	病院	希望館病院	0	0	51	79	0	130
高崎・安中	病院	黒沢病院	12	118	0	0	0	130
高崎・安中	病院	二之沢病院	0	0	0	120	0	120
高崎・安中	病院	高崎中央病院	0	60	0	59	0	119
高崎・安中	病院	医療法人山崎会サンピエール病院	0	57	0	48	0	105
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高リハビリテーション病院	0	0	104	0	0	104
高崎・安中	病院	医療法人社団醫光会 駒井病院	0	0	46	54	0	100
高崎・安中	病院	医療法人社団前橋会 高崎ハートホスピタル	0	49	0	50	0	99
高崎・安中	病院	関越中央病院	0	90	0	0	0	90

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
伊勢崎	病院	大島病院	0	0	0	40	0	40
伊勢崎	診療所	フクイ産婦人科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	あかつきウィメンズクリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	医療法人望真会 古作クリニック	0	13	0	0	0	13
伊勢崎	診療所	渡辺内科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	新生産婦人科医院	0	17	0	0	0	17
伊勢崎	診療所	医療法人社団真正会 南部眼科	0	5	0	0	0	5
伊勢崎	診療所	高柳整形外科歯科クリニック	0	19	0	0	0	19
伊勢崎	診療所	医療法人 笹木会 笹木外科胃腸科	0	0	0	18	18	18
伊勢崎	診療所	セントラルクリニック伊勢崎	0	8	0	0	0	8
伊勢崎	診療所	アベ眼科医院	0	4	0	0	0	4
伊勢崎	診療所	一般社団法人伊勢崎佐野医師会附属成人病棟センター診療所	0	0	11	0	0	11
高崎・安中	病院	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	479	0	0	0	0	479
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高病院	4	232	51	0	0	287
高崎・安中	病院	榛名荘病院	0	80	59	60	0	199
高崎・安中	病院	第一病院	0	99	47	47	0	193
高崎・安中	病院	医療法人真木会真木病院	0	99	51	0	0	150
高崎・安中	病院	高瀬記念病院	0	80	0	90	0	170
高崎・安中	病院	希望館病院	0	0	51	79	0	130
高崎・安中	病院	黒沢病院	12	118	0	0	0	130
高崎・安中	病院	二之沢病院	0	0	0	120	0	120
高崎・安中	病院	高崎中央病院	0	60	0	59	0	119
高崎・安中	病院	医療法人山崎会サンピエール病院	0	57	0	48	0	105
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高リハビリテーション病院	0	0	104	0	0	104
高崎・安中	病院	医療法人社団醫光会 駒井病院	0	0	46	54	0	100
高崎・安中	病院	医療法人社団前橋会 高崎ハートホスピタル	0	49	0	50	0	99
高崎・安中	病院	関越中央病院	0	90	0	0	0	90

【対前年度(2022年-2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
伊勢崎	病院	大島病院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	フクイ産婦人科クリニック	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	あかつきウィメンズクリニック	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	医療法人望真会 古作クリニック	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	渡辺内科クリニック	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	新生産婦人科医院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	医療法人社団真正会 南部眼科	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	高柳整形外科歯科クリニック	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	医療法人 笹木会 笹木外科胃腸科	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	セントラルクリニック伊勢崎	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	アベ眼科医院	0	0	0	0	0	0	
伊勢崎	診療所	一般社団法人伊勢崎佐野医師会附属成人病棟センター診療所	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	442	▲ 442	0	0	0	0	本来の報告が高度急性期479床であった。
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	榛名荘病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	第一病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人真木会真木病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	高瀬記念病院	0	80	▲ 55	5	0	30	昭和病院と高瀬記念クリニックの統合によるもの。
高崎・安中	病院	希望館病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	黒沢病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	二之沢病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	高崎中央病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人山崎会サンピエール病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人社団日高会日高リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人社団醫光会 駒井病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人社団前橋会 高崎ハートホスピタル	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	関越中央病院	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
高崎・安中	病院	医療法人中央群馬脳神経外科病院	6	46	36	0	0	88
高崎・安中	病院	井上病院	0	0	85	0	0	85
高崎・安中	病院	産科婦人科館出張佐藤病院	0	84	0	0	0	84
高崎・安中	病院	綿貫病院	0	0	0	80	0	80
高崎・安中	病院	野口病院	0	50	0	0	0	50
高崎・安中	病院	医療法人大原会大原病院	0	0	0	45	0	45
高崎・安中	病院	高瀬クリニック	0	35	0	0	0	35
高崎・安中	病院	医療法人十葉会上大類病院	0	25	0	0	0	25
高崎・安中	病院	公立碓氷病院	0	50	49	50	0	149
高崎・安中	病院	医療法人済恵会須藤病院	0	48	41	31	0	120
高崎・安中	病院	松井田病院	0	0	0	109	0	109
高崎・安中	病院	正田病院	0	0	0	43	0	43
高崎・安中	病院	本多病院	0	0	0	20	0	20
高崎・安中	病院	さわらび医療福祉センター	0	0	0	107	0	107
高崎・安中	病院	群馬整肢療護園	0	0	0	116	0	116
高崎・安中	診療所	斎川産婦人科医院	0	10	0	0	0	10
高崎・安中	診療所	医療法人翠松会 松原医院	0	19	0	0	0	19
高崎・安中	診療所	いしもとレディースクリニック	0	0	14	0	0	14
高崎・安中	診療所	清水内科	0	19	0	0	0	19
高崎・安中	診療所	高山眼科緑町医院	0	9	0	0	0	9
高崎・安中	診療所	黒沢病院附属ヘルスパーククリニック	0	0	19	0	0	19
高崎・安中	診療所	矢崎医院	0	0	0	0	19	19
高崎・安中	診療所	独立行政法人国立三重認知症障害者総合施設のそまの園診療所	0	0	0	13	0	13
高崎・安中	診療所	医療法人あいおい会 こすもレディースクリニック	0	1	0	0	0	1
高崎・安中	診療所	狩野外科医院	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	医療法人 小野垣医院	0	3	0	0	0	3
高崎・安中	診療所	みさと診療所	0	0	19	0	0	19

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
高崎・安中	病院	医療法人中央群馬脳神経外科病院	6	46	36	0	0	88
高崎・安中	病院	井上病院	0	0	85	0	0	85
高崎・安中	病院	産科婦人科館出張佐藤病院	0	84	0	0	0	84
高崎・安中	病院	綿貫病院	0	0	0	80	0	80
高崎・安中	病院	野口病院	0	50	0	0	0	50
高崎・安中	病院	医療法人大原会大原病院	0	0	0	45	0	45
高崎・安中	病院	高瀬クリニック	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	病院	医療法人十葉会上大類病院	0	25	0	0	0	25
高崎・安中	病院	公立碓氷病院	0	50	49	50	0	149
高崎・安中	病院	医療法人済恵会須藤病院	0	48	41	31	0	120
高崎・安中	病院	松井田病院	0	0	0	109	0	109
高崎・安中	病院	正田病院	0	0	0	43	0	43
高崎・安中	病院	本多病院	0	0	0	20	0	20
高崎・安中	病院	さわらび医療福祉センター	0	0	0	120	0	120
高崎・安中	病院	群馬整肢療護園	0	0	0	116	0	116
高崎・安中	診療所	斎川産婦人科医院	0	10	0	0	0	10
高崎・安中	診療所	医療法人翠松会 松原医院	0	15	0	0	0	15
高崎・安中	診療所	いしもとレディースクリニック	0	0	14	0	0	14
高崎・安中	診療所	清水内科	0	19	0	0	0	19
高崎・安中	診療所	高山眼科緑町医院	0	9	0	0	0	9
高崎・安中	診療所	黒沢病院附属ヘルスパーククリニック	0	0	19	0	0	19
高崎・安中	診療所	矢崎医院	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	独立行政法人国立三重認知症障害者総合施設のそまの園診療所	0	0	0	13	0	13
高崎・安中	診療所	医療法人あいおい会 こすもレディースクリニック	0	1	0	0	0	1
高崎・安中	診療所	狩野外科医院	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	医療法人 小野垣医院	0	3	0	0	0	3
高崎・安中	診療所	みさと診療所	0	0	19	0	0	19

【対前年度(2022年-2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
高崎・安中	病院	医療法人中央群馬脳神経外科病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	井上病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	産科婦人科館出張佐藤病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	綿貫病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	野口病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人大原会大原病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	高瀬クリニック	0	▲35	0	0	0	▲35	昭和病院と高瀬記念クリニックの統合によるもの。
高崎・安中	病院	医療法人十葉会上大類病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	公立碓氷病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	医療法人済恵会須藤病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	松井田病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	正田病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	本多病院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	病院	さわらび医療福祉センター	0	0	0	13	0	13	
高崎・安中	病院	群馬整肢療護園	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	斎川産婦人科医院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	医療法人翠松会 松原医院	0	▲4	0	0	0	▲4	医療需要等を踏まえ減床。
高崎・安中	診療所	いしもとレディースクリニック	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	清水内科	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	高山眼科緑町医院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	黒沢病院附属ヘルスパーククリニック	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	矢崎医院	0	0	0	0	▲19	▲19	無床化。
高崎・安中	診療所	独立行政法人国立三重認知症障害者総合施設のそまの園診療所	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	医療法人あいおい会 こすもレディースクリニック	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	狩野外科医院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	医療法人 小野垣医院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	みさと診療所	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
高崎・安中	診療所	セントラルレディースクリニック	0	17	0	0	0	17
高崎・安中	診療所	北川眼科クリニック	0	5	0	0	0	5
高崎・安中	診療所	医療法人佐々木医院	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	一般財団法人鎌名荘病院附属高崎診療所はるな整形外科	0	0	19	0	0	19
高崎・安中	診療所	医療法人吉井中央診療所	0	0	11	0	0	11
高崎・安中	診療所	田村産婦人科	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	真中記念クリニック	0	19	0	0	0	19
藤岡	病院	公立藤岡総合病院	0	295	95	0	5	395
藤岡	病院	医療法人社団三思会くすの木病院	0	80	80	54	0	214
藤岡	病院	医療法人 育生会 篠塚病院	0	20	15	39	0	74
藤岡	病院	藤岡市国民健康保険鬼石病院	0	0	52	47	0	99
藤岡	病院	光病院	0	80	0	0	0	80
富岡	病院	公立富岡総合病院	32	191	87	18	0	328
富岡	病院	公立七日市病院	0	0	107	55	0	162
富岡	病院	西毛病院	0	0	0	50	0	50
富岡	病院	下仁田厚生病院	0	0	48	46	0	94
富岡	診療所	医療法人小泉 小泉医院	0	9	0	0	0	9
吾妻	病院	原町赤十字病院	0	131	45	19	0	195
吾妻	病院	(公社)群馬県医師会群馬リハビリテーション病院	0	0	156	40	0	196
吾妻	病院	吾妻さくら病院	0	7	0	60	0	67
吾妻	病院	草津こまくさ病院	0	0	0	114	0	114
吾妻	病院	西吾妻福祉病院	0	37	37	0	0	74
吾妻	病院	長生病院	0	0	0	39	0	39
吾妻	病院	医療法人社団 寿山会田島病院	0	0	24	46	0	70
吾妻	病院	国立療養所栗生楽泉園	0	0	0	345	50	395
吾妻	診療所	医療法人 東瞭会櫻井医院	0	19	0	0	0	19
吾妻	診療所	医療法人 けんもち医院	0	19	0	0	0	19

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
高崎・安中	診療所	セントラルレディースクリニック	0	17	0	0	0	17
高崎・安中	診療所	北川眼科クリニック	0	5	0	0	0	5
高崎・安中	診療所	医療法人佐々木医院	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	一般財団法人鎌名荘病院附属高崎診療所はるな整形外科	0	19	0	0	0	19
高崎・安中	診療所	医療法人吉井中央診療所	0	0	11	0	0	11
高崎・安中	診療所	田村産婦人科	0	0	0	0	0	0
高崎・安中	診療所	真中記念クリニック	0	19	0	0	0	19
藤岡	病院	公立藤岡総合病院	0	295	95	0	5	395
藤岡	病院	医療法人社団三思会くすの木病院	0	80	80	54	0	214
藤岡	病院	医療法人 育生会 篠塚病院	0	20	15	39	0	74
藤岡	病院	藤岡市国民健康保険鬼石病院	0	0	52	47	0	99
藤岡	病院	光病院	0	80	0	0	0	80
富岡	病院	公立富岡総合病院	32	191	87	18	0	328
富岡	病院	公立七日市病院	0	0	107	55	0	162
富岡	病院	西毛病院	0	0	0	50	0	50
富岡	病院	下仁田厚生病院	0	0	48	46	0	94
富岡	診療所	医療法人小泉 小泉医院	0	9	0	0	0	9
吾妻	病院	原町赤十字病院	0	131	45	19	0	195
吾妻	病院	(公社)群馬県医師会群馬リハビリテーション病院	0	0	156	33	0	189
吾妻	病院	吾妻さくら病院	0	0	0	60	7	67
吾妻	病院	草津こまくさ病院	0	0	0	114	0	114
吾妻	病院	西吾妻福祉病院	0	37	37	0	0	74
吾妻	病院	長生病院	0	0	0	39	0	39
吾妻	病院	医療法人社団 寿山会田島病院	0	0	24	46	0	70
吾妻	病院	国立療養所栗生楽泉園	0	0	0	345	50	395
吾妻	診療所	医療法人 東瞭会櫻井医院	0	4	0	0	0	4
吾妻	診療所	医療法人 けんもち医院	0	19	0	0	0	19

【対前年度(2022年-2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
高崎・安中	診療所	セントラルレディースクリニック	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	北川眼科クリニック	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	医療法人佐々木医院	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	一般財団法人鎌名荘病院附属高崎診療所はるな整形外科	0	19	▲19	0	0	0	年間150～190件の救急搬送を受け入れ、脳血管疾患・頭部外傷等の治療を行っているほか、手術にも対応しているため。
高崎・安中	診療所	医療法人吉井中央診療所	0	0	0	0	0	0	
高崎・安中	診療所	田村産婦人科	0	▲19	0	0	0	▲19	無床化。
高崎・安中	診療所	真中記念クリニック	0	0	0	0	0	0	
藤岡	病院	公立藤岡総合病院	0	0	0	0	0	0	
藤岡	病院	医療法人社団三思会くすの木病院	0	0	0	0	0	0	
藤岡	病院	医療法人 育生会 篠塚病院	0	0	0	▲36	0	▲36	介護医療院へ転換したため。
藤岡	病院	藤岡市国民健康保険鬼石病院	0	0	0	0	0	0	
藤岡	病院	光病院	0	0	0	0	0	0	
富岡	病院	公立富岡総合病院	0	0	0	0	0	0	
富岡	病院	公立七日市病院	0	0	0	0	0	0	
富岡	病院	西毛病院	0	0	0	0	0	0	
富岡	病院	下仁田厚生病院	0	0	0	▲46	46	0	医療需要等を踏まえ減床。 ※病床機能再編支援事業活用(協議済み)
富岡	診療所	医療法人小泉 小泉医院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	原町赤十字病院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	(公社)群馬県医師会群馬リハビリテーション病院	0	0	0	▲7	0	▲7	医療需要等を踏まえ、回復期機能の強化のため減床。
吾妻	病院	吾妻さくら病院	0	▲7	0	0	7	0	現在一般病棟に対応できる医師や看護師、設備について不足している為。
吾妻	病院	草津こまくさ病院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	西吾妻福祉病院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	長生病院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	医療法人社団 寿山会田島病院	0	0	0	0	0	0	
吾妻	病院	国立療養所栗生楽泉園	0	0	0	0	0	0	
吾妻	診療所	医療法人 東瞭会櫻井医院	0	▲15	0	0	0	▲15	医療需要等を踏まえ減床。
吾妻	診療所	医療法人 けんもち医院	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
沼田	病院	利根中央病院	38	140	75	0	0	253
沼田	病院	医療法人社団ほたか会群馬ハース病院	0	55	0	144	0	199
沼田	病院	独立行政法人国立病院機構沼田病院	0	106	55	0	14	175
沼田	病院	内田病院	0	49	50	0	0	99
沼田	病院	沼田脳神経外科循環器科病院	0	84	0	0	0	84
沼田	病院	上牧温泉病院	0	40	36	0	0	76
沼田	病院	医療法人パトラ会月夜野病院	0	32	40	0	0	72
沼田	診療所	白根クリニック	0	0	0	19	0	19
沼田	診療所	角田外科医院	0	0	0	19	0	19
沼田	診療所	医療法人 久保産婦人科医院	0	0	0	0	11	11
桐生	病院	桐生厚生総合病院	33	365	31	0	0	429
桐生	病院	医療法人社団三思会東邦病院	0	221	58	164	0	443
桐生	病院	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	0	112	104	54	0	270
桐生	病院	医療法人社団全仁会 高木病院	0	0	59	48	60	167
桐生	病院	日新病院	0	0	39	51	0	90
桐生	病院	みどり病院	0	0	0	50	0	50
桐生	病院	岩下病院	0	0	48	0	0	48
桐生	病院	大和病院	0	0	0	40	0	40
桐生	病院	桐生整形外科病院	0	38	0	0	0	38
桐生	病院	両毛整肢療護園	0	0	0	60	0	60
桐生	病院	療育センターきぼう	0	0	0	140	0	140
桐生	診療所	医療法人宏愛会篠原クリニック	0	0	0	19	0	19
桐生	診療所	医療法人山口会山口クリニック	0	0	19	0	0	19
桐生	診療所	たかのす診療所	0	15	0	0	0	15
桐生	診療所	下山内科医院	0	0	0	19	0	19
桐生	診療所	青木眼科	0	0	6	0	0	6
桐生	診療所	岩宿クリニック	0	15	0	0	0	15
太田・郡山	病院	SUBARU健康保険組合太田記念病院	28	354	18	0	0	400

【令和4年度(2022年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
沼田	病院	利根中央病院	38	140	75	0	0	253
沼田	病院	医療法人社団ほたか会群馬ハース病院	0	55	0	144	0	199
沼田	病院	独立行政法人国立病院機構沼田病院	0	106	55	0	14	175
沼田	病院	内田病院	0	49	50	0	0	99
沼田	病院	沼田脳神経外科循環器科病院	0	84	0	0	0	84
沼田	病院	上牧温泉病院	0	40	36	0	0	76
沼田	病院	医療法人パトラ会月夜野病院	0	32	40	0	0	72
沼田	診療所	白根クリニック	0	0	0	19	0	19
沼田	診療所	角田外科医院	0	0	0	19	0	19
沼田	診療所	医療法人 久保産婦人科医院	0	0	0	0	11	11
桐生	病院	桐生厚生総合病院	33	365	31	0	0	429
桐生	病院	医療法人社団三思会東邦病院	0	221	58	164	0	443
桐生	病院	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	0	112	104	54	0	270
桐生	病院	医療法人社団全仁会 高木病院	0	0	59	48	60	167
桐生	病院	日新病院	0	0	39	51	0	90
桐生	病院	みどり病院	0	0	0	50	0	50
桐生	病院	岩下病院	0	0	48	0	0	48
桐生	病院	大和病院	0	0	0	40	0	40
桐生	病院	桐生整形外科病院	0	38	0	0	0	38
桐生	病院	両毛整肢療護園	0	0	0	60	0	60
桐生	病院	療育センターきぼう	0	0	0	140	0	140
桐生	診療所	医療法人宏愛会篠原クリニック	0	0	0	19	0	19
桐生	診療所	医療法人山口会山口クリニック	0	0	19	0	0	19
桐生	診療所	たかのす診療所	0	15	0	0	0	15
桐生	診療所	下山内科医院	0	0	0	19	0	19
桐生	診療所	青木眼科	0	0	6	0	0	6
桐生	診療所	岩宿クリニック	0	15	0	0	0	15
太田・郡山	病院	SUBARU健康保険組合太田記念病院	28	354	18	0	0	400

【対前年度(2022年-2021年)】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
沼田	病院	利根中央病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	医療法人社団ほたか会群馬ハース病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	独立行政法人国立病院機構沼田病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	内田病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	沼田脳神経外科循環器科病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	上牧温泉病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	病院	医療法人パトラ会月夜野病院	0	0	0	0	0	0	
沼田	診療所	白根クリニック	0	0	0	0	0	0	
沼田	診療所	角田外科医院	0	0	0	0	0	0	
沼田	診療所	医療法人 久保産婦人科医院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	桐生厚生総合病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	医療法人社団三思会東邦病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	医療法人社団全仁会 高木病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	日新病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	みどり病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	岩下病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	大和病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	桐生整形外科病院	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	両毛整肢療護園	0	0	0	0	0	0	
桐生	病院	療育センターきぼう	0	0	0	0	0	0	
桐生	診療所	医療法人宏愛会篠原クリニック	0	0	0	0	0	0	
桐生	診療所	医療法人山口会山口クリニック	0	0	0	0	0	0	
桐生	診療所	たかのす診療所	0	0	0	0	0	0	
桐生	診療所	下山内科医院	0	0	0	0	0	0	
桐生	診療所	青木眼科	0	0	▲6	0	6	0	管理栄養士がいないため。
桐生	診療所	岩宿クリニック	0	0	0	0	0	0	
太田・郡山	病院	SUBARU健康保険組合太田記念病院	0	0	0	0	0	0	

【令和3年度(2021年度)報告】

医療圏	種別	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
太田・館林	病院	医療法人財団明理会イムス太田中央総合病院	0	164	55	131	0	350
太田・館林	病院	本島総合病院	0	289	0	60	0	349
太田・館林	病院	群馬県立がんセンター	0	314	0	0	0	314
太田・館林	病院	医療法人慶仁会城山病院	0	86	0	96	0	182
太田・館林	病院	富士ヶ丘病院	0	51	0	39	0	90
太田・館林	病院	宏愛会第一病院	0	43	80	0	0	123
太田・館林	病院	堀江病院	0	133	45	0	0	178
太田・館林	病院	東毛敬愛病院	0	4	0	44	0	48
太田・館林	病院	公立館林厚生病院	6	233	84	0	0	323
太田・館林	病院	医療法人田口会新橋病院	0	46	0	88	0	134
太田・館林	病院	慶友整形外科病院	0	137	0	0	0	137
太田・館林	病院	医療法人六花会 館林記念病院	0	34	28	42	0	104
太田・館林	病院	医療法人社団醫光会おうら病院	0	39	0	41	0	80
太田・館林	病院	蜂谷病院	0	26	0	48	0	74
太田・館林	病院	海宝会明和セントラル病院	0	0	39	0	0	39
太田・館林	診療所	伊藤産婦人科	0	13	0	0	0	13
太田・館林	診療所	太田協立診療所	0	0	0	0	19	19
太田・館林	診療所	土井レディースクリニック	0	0	0	0	13	13
太田・館林	診療所	医療法人社団岩崎会 岩崎医院	0	13	0	0	0	13
太田・館林	診療所	医療法人社団真中医院	0	13	0	0	0	13
太田・館林	診療所	岡田整形外科クリニック	0	2	0	0	0	2
太田・館林	診療所	藤井レディースクリニック	0	18	0	0	0	18

【令和4年度(2022年度)報告】

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
0	164	55	131	0	350
0	283	0	60	6	349
0	314	0	0	0	314
0	86	0	96	0	182
0	51	0	39	0	90
0	43	80	0	0	123
0	133	45	0	0	178
0	4	0	44	0	48
6	233	84	0	0	323
0	46	0	88	0	134
0	137	0	0	0	137
0	34	24	46	0	104
0	39	0	41	0	80
0	26	0	48	0	74
0	0	39	0	0	39
0	13	0	0	0	13
0	0	0	0	19	19
0	0	0	0	13	13
0	13	0	0	0	13
0	13	0	0	0	13
0	0	0	0	2	2
0	18	0	0	0	18

【対前年度(2022年-2021年)】

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	変更等の理由等
0	0	0	0	0	0	
0	▲6	0	0	6	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	▲4	4	0	0	地域の医療ニーズが、回復期リハビリテーション病棟の対象患者より療養病棟の対象患者が多くなり病床数が不足となることがあるため。
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	▲2	0	0	2	0	従業員(人員)の関係上廃止する予定。
0	0	0	0	0	0	



## 渋川保健医療圏における病床機能の状況

[2022(令和4)年7月1日時点の機能として、各医療機関が自主的に選択した機能の状況]

医療機関名称	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中 (再開予定)	休棟中 (廃止予定)	休棟中又は最大使用病床数が0の病床がある場合の理由等
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	300	0	275	25	0	0	0	
渋川中央病院	153	0	60	43	50	0	0	
群馬県立小児医療センター	150	41	109	0	0	0	0	
北毛保健生活協同組合北毛病院	150	0	100	0	50	0	0	
北関東循環器病院	120	0	76	0	44	0	0	
群栄会田中病院	98	0	0	43	55	0	0	
医療法人恒和会 関口病院	85	0	35	50	0	0	0	
母心堂平形眼科	5	0	5	0	0	0	0	隣接県道拡幅工事の予定が示され、移動を必要とするため、入院患者受け入れを中止し、病棟新築計画中のため(急性期5床)。
有馬クリニック	8	0	8	0	0	0	0	
医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	19	0	19	0	0	0	0	医師が体調不良の為入院対応が出来なかった。再開時期は未定(急性期19床)。
小計	1,088	41	687	161	199	0	0	
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター(3階病棟のみ)	100				100			
合計	1,188	41	687	161	299	0	0	

※独立行政法人国立病院機構渋川医療センター(3階病棟のみ)については、医療型障害児入所施設等の病床数

[2025年7月1日時点の病床機能に変更予定ありとした医療機関]

医療機関名	2022年7月1日時点 の医療機能	2025年7月1日時点 の医療機能	対象病床	変更等の理由等
医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	急性期	休棟予定	一般病床・19床	(再掲)医師が体調不良の為入院対応が出来なかった。再開時期は未定。

[2025年7月1日時点の病床機能に係る集計結果について(予定)]

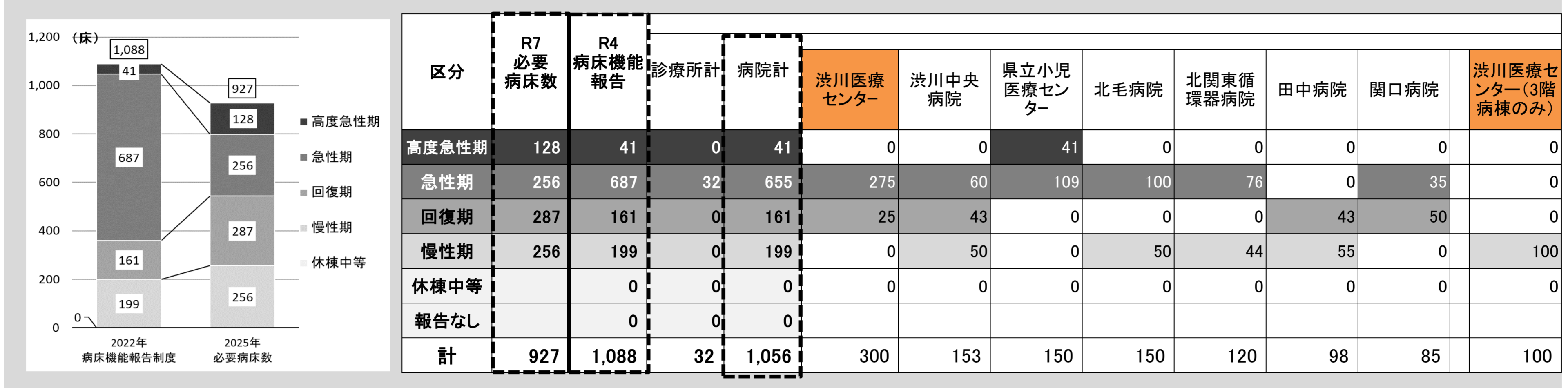
医療機関名称	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟予定	2025年(予定) 合計-2022年 合計	変更等の理由等
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	300	0	275	25	0	0	0	
渋川中央病院	153	0	60	43	50	0	0	
群馬県立小児医療センター	150	41	109	0	0	0	0	
北毛保健生活協同組合北毛病院	150	0	100	0	50	0	0	
北関東循環器病院	120	0	76	0	44	0	0	
群栄会田中病院	98	0	0	43	55	0	0	
医療法人恒和会 関口病院	85	0	35	50	0	0	0	
母心堂平形眼科	5	0	5	0	0	0	0	
有馬クリニック	8	0	8	0	0	0	0	
医療法人社団悠育会 クリニックオガワ	19	0	0	0	0	19	0	(再掲)医師が体調不良の為入院対応が出来なかった。再開時期は未定。
小計	1,088	41	668	161	199	19	0	
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター(3階病棟のみ)	100	0	0	0	100	0	0	
合計	1,188	41	668	161	299	19	0	

※独立行政法人国立病院機構渋川医療センター(3階病棟のみ)については、医療型障害児入所施設等の病床数

# 各病院の状況整理【渋川保健医療圏】

※ この表における病床機能報告の病床数の計には渋川医療センター3階病棟の病床数は含まれていません。

## 1. 医療機能別の病床の状況



## 2. 稼働病床の状況

【単位:床・人・日】

	渋川医療センター	渋川中央病院	県立小児医療センター	北毛病院	北関東循環器病院	田中病院	関口病院	渋川医療センター(3階病棟のみ)
許可病床数(A)	300	153	150	150	120	98	85	100
最大使用病床数(B)	271	141	140	150	120	98	50	100
(A-B)	29	12	10	0	0	0	35	0
在棟患者延べ数(年間)(C)	77,523	42,720	40,208	51,222	38,827	34,159	20,684	34,165
平均在院日数(C/(新規入院患者数+退棟患者数)/2))	11.3	45.5	10.9	18.5	10.5	139.4	29.7	-
病床稼働率((C/A)÷365日)	70.8%	76.5%	73.4%	93.6%	88.6%	95.5%	66.7%	93.6%
救急車の受入件数(R3.4.1~R4.3.31)	1,133	148	498	988	417	19	614	0
分娩件数(R3.4.1~R4.3.31)	0	31	240	0	0	0	0	0

## 3. 算定する入院基本料・特定入院料及び届出病床数

	渋川医療センター	渋川中央病院	県立小児医療センター	北毛病院	北関東循環器病院	田中病院	関口病院	渋川医療センター(3階病棟のみ)
急性期一般入院料1	275床		18床	50床	76床			
急性期一般入院料5		60床						
急性期一般入院料6							35床	
療養病棟入院料1		50床		50床				
障害者施設等10対1入院基本料					44床	43床		100床
特定集中治療室管理料3			8床					
新生児特定集中治療室管理料1			15床					
新生児治療回復室入院医療管理料			18床					
小児入院医療管理料1			91床					
回復期リハビリテーション病棟入院料4		43床						
地域包括ケア病棟入院料1				50床				
地域包括ケア病棟入院料2							50床	
地域包括ケア入院医療管理料2		(12床)						
特殊疾患病棟入院料2						55床		
診療報酬上及び介護報酬上の入院料の届出なし	354床							
合計	754床	153床	150床	150床	120床	98床	85床	100床

※許可病床数、算定する入院基本料・特定入院料等については令和3年7月1日時点

※()書きの病床数は、報告病棟において病室単位で届出を行っている場合に当該病床数を再掲で記載したもの

# 外来機能の明確化・連携について

## 目次

1. 紹介受診重点医療機関について
2. 渋川医療圏の協議対象医療機関

# 1. 紹介受診重点医療機関について

## 紹介受診重点医療機関とは

- 紹介患者への外来を基本とする医療機関。
- 地域医療支援病院や特定機能病院に加えて、紹介患者への外来を基本とする医療機関となる。
- 手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要とする外来を行う。



## 紹介受診重点医療機関を明確化することとなった背景

### 【課題】

一部の医療機関に患者が集中しており、以下の問題が発生している。

- 外来患者の待ち時間増加
- 勤務医の外来負担

### 【原因】

患者が医療機関を選択するにあたり、十分な情報が得られていない。



### 【対応策】

紹介受診重点医療機関を選定・公表することで、  
外来機能を明確化し、患者の流れの円滑化を図る

## 紹介受診重点医療機関の選定方法

- 医療機関の意向が第一とした上で、地域の医療提供体制のあり方として望ましい方向性について、関係者間で十分に協議。
- 医療資源を重点的に活用する外来に関する基準の適合状況を確認。  
(初診基準40%以上 かつ 再診基準25%以上)
- 意向と基準が合致しない医療機関については、協議を行う。
- 最終的に、意向と協議の場での結論が合致したものに限り公表する。

		意向あり	意向なし
紹介受診重点医療機関の基準	満たす	特別な事情がない限り、 <u>紹介受診重点医療機関</u> となることが想定される。	<b>協議</b>
	満たさない	<b>協議</b>	—

## (参考) 初診・再診基準 及び 紹介率・逆紹介率について

$$\text{初診基準} : \frac{\text{紹介受診重点外来の件数※}}{\text{初診の外来件数}}$$

$$\text{再診基準} : \frac{\text{紹介受診重点外来の件数※}}{\text{再診の外来件数}}$$

※紹介受診重点医療機関：以下のいずれかに該当する外来。

- 医療資源を重点的に活用する入院の前後（30日間）の外来
- 高額等の医療機器・設備を必要とする外来
- 特定の領域に特化した機能を有する外来（紹介患者に対する外来等）

$$\text{紹介率} : \frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$$

$$\text{逆紹介率} : \frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$$



## 紹介受診重点医療機関選定にかかるスケジュール

- 今夏の協議は、令和4年度外来機能報告の結果に基づき行う。
- 令和5年度末までに、再度、令和5年度外来機能報告の結果に基づいた協議を行い、紹介受診重点医療機関を選定する必要がある。

※ 紹介受診重点医療機関は、協議結果の公表をもって更新されます。

	6～7月	8月	9月	10～11月	12月	1～3月
保健福祉事務所 保健所	事前調整	協議の場の開催			事前調整	協議の場の開催
医務課		公表				公表
医療機関		必要に応じて 協議の場に参加	報告準備	報告 期間		必要に応じて 協議の場に参加
国			報告依頼		集計	
	令和4年度報告		令和5年度報告			

## (参考) 地域医療支援病院 及び 特定機能病院の扱い

- 地域医療支援病院・特定機能病院は、紹介受診重点医療機関の基準を満たすことが想定される。
- 基準を満たす場合は、原則として紹介受診重点医療機関となることが望ましい。
- 基準を満たさない場合は、本来担うべき役割（医師の少ない地域の支援、医療従事者に対する研修の実施、等）を踏まえ、地域の外来提供体制において果たす役割を協議の場で確認する。

(参考)

	地域医療支援病院	特定機能病院
役割	<ul style="list-style-type: none"><li>○紹介患者に対する医療の提供</li><li>○医療機器の共同利用の実施</li><li>○救急医療の提供</li><li>○地域の医療従事者に対する研修</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○高度の医療の提供</li><li>○高度の医療技術の開発・評価</li><li>○高度の医療に関する研修</li><li>○高度な医療安全管理体制</li></ul>

## (参考) 紹介受診重点医療機関になることで期待できる効果

### 【すべての医療機関】

- 200床未満の病院又は診療所から紹介された患者に対して、連携強化診療情報提供料（旧：診療情報提供料Ⅲ）を毎月算定できる。
- 紹介受診重点医療機関である旨の広告が可能となる。

### 【一般病床200床以上の病院】

- 紹介状のない患者等が受診する場合の定額負担の徴収の対象（例外規定あり）。
- 紹介受診重点医療機関入院診療加算（入院初日に800点）を算定できる。  
（※地域医療支援病院入院診療加算(1000点)は別に算定できない。）

### (参考)

- 定額負担：特定機能病院、地域医療支援病院に加えて紹介受診重点医療機関も対象病院となった。
- 連携強化診療情報提供料：紹介受診重点医療機関であれば、紹介元の医療機関に施設基準上の規定がない。

## (参考) 紹介受診重点医療機関Q&Aより抜粋

- 紹介受診重点医療機関のない二次医療圏が出来ることも考えられる。
- 紹介受診重点医療機関の公表日は、1日付けとする。
- 診療報酬の加算開始時期の詳細については、算定要件を確認されたい。
- 外来機能報告の結果については、病床機能報告と同様に公開する。
- 意向と基準が合致していない医療機関が紹介受診重点医療機関となるか否かは、地域の外来医療の状況により判断される。都道府県で一律の判断とはならない。
- 紹介受診重点医療機関とならない地域医療支援病院については、地域における当該医療機関の機能について、協議の場で確認を行う。

### (参考資料)

- 「外来機能報告等に関するガイドライン（令和5年3月31日改正）」
- 
- [外来機能報告について \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)
  - [PowerPoint プレゼンテーション \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp) (←診療報酬関係)

## 2. 渋川医療圏の協議対象医療機関

# 紹介受診重点医療機関選定にかかる 協議の対象となる医療機関(渋川)

◆意向あり × 基準を満たす

		意向あり	意向なし
紹介受診重点医療機関の基準	満たす	特別な事情がない限り、紹介受診重点医療機関となることが想定される。	<b>協議</b>
	満たさない	<b>協議</b>	—

医療機関名	意向	初診基準	再診基準
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	○	<b><u>56.4%</u></b>	<b><u>29.8%</u></b>
北関東循環器病院	○	<b><u>58.7%</u></b>	<b><u>35.8%</u></b>

初診基準 (初診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合) : 40%以上  
 再診基準 (再診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合) : 25%以上

# ① 意向あり かつ 基準を満たす

1. 協議の場にて、当該医療機関の基準達成状況を確認。
2. 意向と基準が一致しているため、当該医療機関が  
紹介受診重点医療機関となることを確認。

- 異議がない場合・・・選定
- 異議がある場合・・・後日再協議

## 紹介受診重点医療機関の協議内容

		意向あり	意向なし
紹介受診重点医療機関の基準	満たす	<p>該当医療機関が紹介受診重点医療機関として選定されることを報告する。 → <b>異議等がなければ選定</b></p>	<p>①医療機関の意向 ②地域の医療提供体制 ③紹介受診重点医療機関の趣旨を踏まえて協議し、 <b>医療機関の意向を再確認。</b> →医療機関の意向と協議の結論が合致した場合選定</p>
	満たさない	<p><b>基準に加えて、紹介率・逆紹介率等を活用して協議。</b> →医療機関の意向と協議の結論が合致した場合選定</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>&lt;具体的水準&gt; 紹介率50%以上かつ逆紹介率40%以上</p> </div> <p>※選定される場合、基準を満たす蓋然性・スケジュールについて説明（公表を検討）</p>

不要



# 紹介受診重点医療機関選定にかかる 協議の対象となる医療機関（渋川）

	意向あり	意向なし
紹介受診重点医療機関の基準 満たす	特別な事情がない限り、 紹介受診重点医療機関と なることが想定される。	<b>協議</b>
満たさない	<b>協議</b>	—

◆意向なし だが 基準を満たす

医療機関名	意向	初診基準	再診基準	備考
該当なし				

**不要**

初診基準（初診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）：40%以上  
 再診基準（再診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）：25%以上

## ② 意向なし かつ 基準を満たす

1. 協議の場にて、当該医療機関の基準達成状況を確認。
2. 医療機関に、紹介受診重点医療機関となる意向がないことを確認。
3. 当該地域の医療提供体制のあり方について協議。
4. 紹介受診重点医療機関の趣旨等を再確認。

- 協議の結果と意向が一致した場合・・・選定しないことを確認
- 協議の結果と意向が不一致の場合・・・後日再協議

※なお、事務局は、再協議に向け当該医療機関に改めて意向を確認する。

不要

# 紹介受診重点医療機関選定にかかる 協議の対象となる医療機関（渋川）

◆意向あり × 基準を満たさない

		意向あり	意向なし
紹介受診重点医療機関の基準	満たす	特別な事情がない限り、 紹介受診重点医療機関と なることが想定される。	協議
	満たさない	協議	—

医療機関名	意向	初診基準	再診基準	紹介率	逆紹介率
該当なし					

不要

初診基準（初診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）：40%以上  
再診基準（再診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）：25%以上

### ③ 意向あり かつ 基準を満たさない

1. 協議の場にて、当該医療機関の基準（初診・再診）達成状況及び、紹介率・逆紹介率の値を確認。
2. 医療機関に、紹介受診重点医療機関となる意向があることを確認。
3. 意向と基準が一致していないため、1. のデータを参考に、地域の医療提供体制のあり方について協議を行う。

不要

#### • 協議の結果と意向が一致した場合・・・選定

※なお、当該医療機関に基準の達成に向けたスケジュール等の説明を要求する。

#### • 協議の結果と意向が不一致の場合・・・後日再協議